

鳥取県版

地域カルテ

のススメ



目次

1. はじめに	1
2. 地域カルテとは	3
3. 地域アセスメントの目的・必要性について	26
4. 地域アセスメントの方法について	27
5. 鳥取県版地域カルテを活用した地域アセスメントから地域支援への展開	29
6. 取組事例の紹介	33
① 住民との協働による地域カルテの活用	
南部町社会福祉協議会	34
② 地域アセスメントシートを活用した、職員間の情報共有と蓄積・意識の変化	
智頭町社会福祉協議会	40
③ 自治会長への個別訪問による関係づくりと地域アセスメント	
米子市社会福祉協議会	46
④ 地域資源リストの作成と地域支援記録の活用	
倉吉市社会福祉協議会	51
⑤ 自治会シートとヒアリングシートの活用	
北栄町社会福祉協議会	57
⑥ 公民協働による社会資源パンフレットの作成	
鳥取市社会福祉協議会	63
7. 地域カルテシートの改善・留意点について	68
8. おわりに	69
9. 鳥取県版地域カルテ策定委員からのコメント	70
10. 参考文献	71
11. 鳥取県版地域カルテ策定委員会について	71
鳥取県版地域カルテ策定委員会委員名簿	72

1. はじめに

市町村社会福祉協議会（以下、市町村社協という）で、「地域への働きかけや支援する中で困っていること」として、以下のようなことはないでしょうか。

▼ 地域担当者目線

- ・ 担当になったけど、地域の仕組みや資源が分からない
- ・ 地域のキーパーソンが分からない
- ・ 何から手をつけていけばいいか分からない
- ・ 地域住民に、どのように主体的に地域を良くしようと意識を持ってもらうか分からない
- ・ 担当者や活動者の求心力は高いが、その人が交代した場合に活動が続かないことがある
- ・ 自分一人で、地域と関わらなければならない状況になっている
- ・ 地域の本当の困りごとが把握できているのか分からない
- ・ 市町村社協職員と地域住民との間に、想いのずれがある
- ・ 地域の担当になった時、前任から十分な情報がもらえない

▼ 組織上司目線

- ・ 地域の担当者が、日々何をしているのか分からない
- ・ 地域の担当者のみが持っている情報がある
- ・ 組織内で地域の情報共有ができていない
- ・ 部署によって地域福祉への意識の差を感じる

▼ 住民目線

- ・ 市町村社協が何をしているのか、よく分からない
- ・ 市町村社協の担当が変わった時に、これまでのことが引き継がれていない
- ・ 市町村社協の担当が変わった時に、繋がりが継続しない

▼ 行政、関係者目線

- ・ 市町村社協が何をしているのか、よく分からない
- ・ 地域福祉推進計画などの中で、地域や行政、社協の役割が明確でない

先述したのは、鳥取版地域カルテ策定委員会（以下、本委員会という）で議論された「市町村社協あるある」です。

皆さんの経験から、一つは当てはまるものがあるのではないのでしょうか。

このような市町村社協あるあるを解決するために大事なものは、**地域の情報をまとめて、分析し、共有すること**です。

地域の情報をまとめて記録しておくことにより、地域のことが一目で分かります。

また、その情報を分析することで、地域の特性や状況を把握し、これらを共有することで地域住民が地域福祉について考えるきっかけとなり、また、組織内や行政、関係機関などと連携を取ることができます。

地域の情報をまとめて、分析し、共有するための方法の一つが、本書で紹介する**地域カルテ・地域アセスメント**です。

本委員会では、市町村社協が地域カルテを通じて、地域アセスメントを行う必要性やその有効な活用方法について議論し、その結果を本書にまとめました。

既に地域アセスメントを実施している市町村社協には新たな視点での取り組みを、また、実施していない市町村社協には新たに地域アセスメントに取り組むきっかけとして本書の積極的な活用を期待します。



2. 地域カルテとは

地域カルテとは、①地域アセスメント（情報収集・分析）した記録であり、②地域へのアプローチを検討し、③「**ありたい地域の姿**」に近づけていくための重要なひとつのツールです。

本委員会では、「鳥取県版地域カルテ」と題し、地域の情報をまとめるためや、市町村社協の職員の活動を記録するために、以下の**8つのシート**を策定しました。

① 基礎情報シート

② 社会資源リスト

1. 社会資源リスト①【施設等】
2. 社会資源リスト②【インフォーマル資源 地域活動】
3. 社会資源リスト③【インフォーマル資源 居場所等】

③ 自治会シート

④ 自治会等年間スケジュール

⑤ 地域活動者ヒアリングシート

⑥ 役職一覧

⑦ 地域分析シート（ワーカーの気づき・認識）

⑧ 地域支援記録



鳥取県版地域カルテでは、地域を知るうえで重要な項目を記載し、書式としてまとめています。これらのシートに地域の情報を落とし込むことで、地域のことをより細かく把握・整理することに繋がり、**地域の状況の解像度を上げて捉える**ことができます。

また、**市町村社協内や地域住民・関係機関などとの情報共有の手段**としても役立てることができます。（図1・図2参照）



図1 地域カルテを作成する前の地域のイメージ図（解像度が低い）



図2 地域カルテを作成した後の地域のイメージ図（解像度が高い）

しかしながら、鳥取県版地域カルテは、記載している項目をすべて記入することが目的ではありません。その地域に必要な項目であれば、省略することも可能です。地域カルテは、あくまで地域を知る上で重要な項目を記載しているだけに過ぎず、それぞれの地域に合わせて、必要な項目を検討し、時には項目を変更して、**地域について深掘り**していくことが大切です。

そして、地域カルテを作成することが目的ではなく、地域カルテを活用し、**地域福祉の方向性や展開などを地域全体で考えていく**ことが大切です。



鳥取県版 地域カルテ「シート」集

① 基礎情報シート

② 社会資源リスト

1. 社会資源リスト①【施設等】

2. 社会資源リスト②【インフォーマル資源 地域活動】

3. 社会資源リスト③【インフォーマル資源 居場所等】

③ 自治会シート

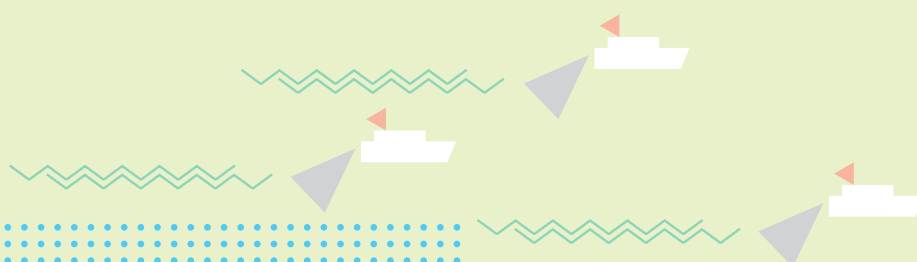
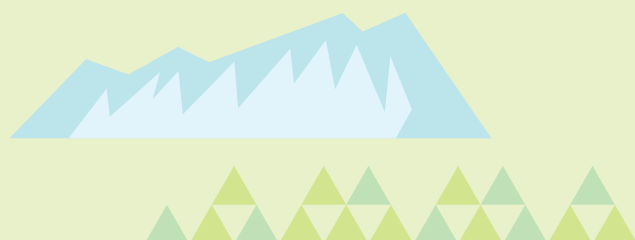
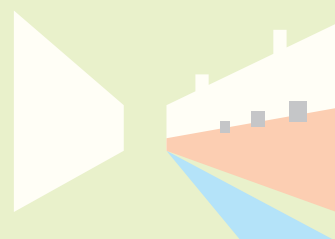
④ 自治会等年間スケジュール

⑤ 地域活動者ヒアリングシート

⑥ 役職一覧

⑦ 地域分析シート（ワーカーの気づき・認識）

⑧ 地域支援記録



シート番号① 基礎情報シート

このシートは地域の基礎的な情報をまとめたものになります。

地域の面積や人口、学校数などが、項目として挙げられます。多くの項目は、行政や関連機関のウェブサイトや調査を通じて把握することができるのではないのでしょうか。

一方で、関係機関の協力がないと、記録するのが難しい項目もあります。

関係機関と連携できる体制を整えることも地域支援では重要です。

このシートを記録することで、地域の規模や高齢者が多いのか、子育て世代が多いのかなど、地域の概要が見えてきます。

このシートはできれば住民と一緒に作り、共有をしていきましょう。そうすることで住民との繋がり、また住民の地域に対する理解が深まります。

● このシートが活用できる場面

- 地域の基礎的な情報を知る
- 自分(市町村社協)のことも知ってもらう
- 得られた情報を組織全体や支援関係団体で共有する
- 地域データ、情報を地域に還元する



シート番号①

____ 校区 _____ 地区 基礎情報シート

____ 年 ____ 月 ____ 日 現在

項目	地区	全市・町	入手先	更新日
面積	km ²	km ²		R . .
人口	人	人		
0～14歳（年少人口率）	人（％）	人（％）		R . .
15～64歳（生産年齢人口率）	人（％）	人（％）		
65歳以上（高齢化率）	人（％）	人（％）		
世帯数	世帯	世帯		R . .
高齢者世帯数	世帯	世帯		R . .
独居世帯数	世帯	世帯		R . .
高齢者二人以上世帯数	世帯	世帯		R . .
昼間一人暮らし高齢者数	人	人		R . .
ひとり親世帯数（児童扶養手当受給者）	世帯	世帯		R . .
生活保護世帯数	世帯	世帯		R . .
自治会数	加入率 %	加入率 %		R . .
民生児童委員数	人	人		R . .
主任児童委員数	人	人		R . .
福祉委員	人	人		R . .
単位老人クラブ数				R . .
要介護認定者数	人	人		
要支援1・2	人	人		
要介護1	人	人		
要介護2	人	人		
要介護3	人	人		R . .
要介護4	人	人		
要介護5	人	人		
認知症高齢者数	人	人		
障がい者数	人	人		
身体障がい	人	人		
知的障がい	人	人		R . .
精神障がい	人	人		
ひきこもりの方	人	人		R . .
小学校数	校	校		
児童数	人	人		R . .
中学校数	校	校		
生徒数	人	人		R . .
高等学校数	校	校		
生徒数	人	人		R . .
特別支援学校	校	校		R . .
不登校児童・生徒	人	人		R . .
保育園待機者数	人	人		R . .

シート番号②ー1 社会資源リスト①【施設等】

このシートは地域にある社会資源となり得る施設をまとめたものになります。

生活をする上で必要な施設、困ったことの助けとなる施設、あると助かる施設などが、項目として挙げられます。

地域についてインターネットで調べることや、日ごろの地域支援活動などで、把握した項目を記録していくようにしましょう。

このシートを記録することで、高齢者が住みやすい地域なのか、子どもや子育て世帯が過ごしやすいのか、障がい者が住みやすい地域なのか、地域内の生活環境が見えてきます。

また、住民が困ったとき、繋げる候補先とすることができます。

このシートはできれば住民や福祉関係者などと一緒に作り、共有をしましょう。そうすることで住民との繋がり、また住民の地域に対する理解が深まります。

- **このシートが活用できる場面**
-
- **・地域の基礎的な情報を知る**
-
- **・自分(市町村社協)のことを知ってもらう**
-
- **・地域データ、情報を地域に還元する**
-



シート番号②-1

地区 社会資源リスト①【施設等】

年 月 日現在

項 目		数	名 称
社会福祉施設・機関	高齢者関係	老人ホーム（養護、特養）	
		老人保健施設	
		短期入所施設	
		グループホーム	
		ケアハウス	
		小規模多機能型居宅介護	
		デイサービスセンター	
		デイケアセンター	
		訪問介護事業所	
		訪問看護事業所	
		訪問リハビリテーション事業所	
		サービス付き高齢者住宅	
		高齢者専用賃貸住宅	
		地域包括支援センター	
	居宅介護支援事業所		
	福祉用具販売・貸与事業所		
	児童・子育て	共生型児童発達支援サービス	
		相談支援事業所	
		児童発達支援放課後デイサービス	
		児童発達支援事業所	
子育て支援拠点			
障がい	作業所（就労 A・B）		
	障がい者デイ（生活介護）		
	障がい者入所施設		
	障がい者グループホーム		
活動拠点	共同利用施設		
	集会所		
	学校関係		
公園・運動施設			
医療機関			
生活関連機関（スーパー等）			
交通			
教育施設			
農業・漁業			
その他活用可能な社会資源			

シート番号②ー2 社会資源リスト②【インフォーマル資源 地域活動】

このシートはインフォーマルな地域活動をまとめたものになります。

福祉活動団体やボランティア活動、NPO団体など、地域活動に関する項目が挙げられます。

日ごろの地域支援活動などで、把握した項目を記録していくようにしましょう。

このシートを記録することで、どれだけ地域活動が行われているか見えてきます。

また、住民が困ったとき、繋げる候補先とすることができます。

このシートはできれば住民と一緒に作り、共有をしましょう。そうすることで住民との繋がり、また住民の地域に対する理解が深まります。

- **このシートが活用できる場面**
-
- ・地域の基礎的な情報を知る
- ・自分(市町村社協)のことを知ってもらう
- ・地域データ、情報を地域に還元する
-



シート番号②-2

地区 社会資源リスト②【インフォーマル資源 地域活動】 年 月 日現在

項目	名称	活動内容				
		見守り・声かけ	交流	生活支援	調査学習 (アンケート調査等)	その他
福祉活動団体						
ボランティア						
当事者組織						
NPO・企業						
その他団体						

シート番号②-3 社会資源リスト③【インフォーマル資源 居場所等】

このシートはインフォーマルな地域内の居場所をまとめたものになります。
カフェやサロン、NPO団体など、地域活動に関する項目が挙げられます。
日ごろの地域支援活動などで、把握した項目を記録していくようにしましょう。
このシートを記録することで地域内にどれだけ居場所があるか見えてきます。
また、住民が困ったとき、繋げる候補先とすることができます。

居場所となると、高齢者向けのものに注目しやすくなってしまいますが、学生や子育て世代の親など、若年層の居場所についても記録するようにしましょう。

このシートはできれば住民と一緒に作り、共有をしましょう。そうすることで住民との繋がり、また住民の地域に対する理解が深まります。

- **このシートが活用できる場面**
-
- ・地域の基礎的な情報を知る
- ・自分(市町村社協)のことを知ってもらう
- ・地域データ、情報を地域に還元する
-



シート番号②-3

_____ 地区 社会資源リスト③【インフォーマル資源 居場所等】 年 月 日現在

項目	名称	活動日	場所	内容
健康・介護予防				
サロン				
認知症カフェ				
文化・スポーツ活動				

シート番号③ 自治会シート

このシートは自治会の特性や取り組みなどをまとめたものになります。

単純な項目では記録できない自治会の特性や活動状況、キーパーソンなどを記述します。

日ごろの地域支援活動などで、把握したことを記録していくようにしましょう。また、地域住民を集めて自治会シートを作成することで、地域の繋がりを高めることができます。

このシートを記録することで、自治会の歴史や地域性、課題などが見えてきます。

また、役員改選期などを記録しておくことで、改選後の新しい役員にアプローチすることができます。

このシートはできれば住民と一緒に作り、共有をしましょう。そうすることで住民との繋がり、また住民の地域に対する理解が深まります。

- このシートが活用できる場面
- - ・地域の基礎的な情報を知る
 - ・自分(市町村社協)のことを知ってもらう
 - ・地域データ、情報を地域に還元する
 -



シート番号③

自治会シート

年 月 日現在

【自治会の特性・地域性】

(例)

班数 () 班 世帯数 () 世帯 自治会加入率 () %

- ・自治会の成り立ち、歴史など
- ・自治会内の環境 (社会資源、危険家屋、商店等)

【自治会活動の状況】

・年間行事

・自治会費 () 円

・自治会の行事・活動、住民の交流状況

・役員の状況

・役員改選時期 () 年に1回 次期改選年 () 年

・組織体制、部会など

【団体の状況・キーパーソン】

(例)

・民生委員児童委員、在宅福祉員、保健推進員、食生活改善推進員

・子ども会、老人クラブ、婦人会などの年間スケジュール

【自治会内での困りごと】

シート番号④ 自治会等年間スケジュール

このシートは自治会などの行事の年間スケジュールをまとめたものになります。

日ごろの地域支援活動などで、把握した行事を記録していくようにしましょう。

このシートを記録することで自治会などの年間スケジュールと、どのような活動をしているかを把握することができます。

これにより、自治会などでの活動の様子が一目で分かるとともに必要な支援が分かります。また、他の団体の活動を住民間で共有することで、活動の促しにも繋がります。

このシートはできれば住民と一緒に作り、共有をしましょう。そうすることで住民との繋がり、また住民の地域に対する理解が深まります。

- このシートが活用できる場面
- ・地域の基礎的な情報を知る
- ・得られた情報を組織全体や支援関係団体で共有する



シート番号④

____ 地区の自治会等年間スケジュール

年 月 日 現在

団体名	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
自治会												
老人クラブ												
子ども会												
女性の会												

シート番号⑤ 地域活動者ヒアリングシート

このシートは、住民の困りごとや取り組みたい活動、活用できそうな資源など聞き取りしたことをまとめたものになります。

日ごろの地域支援活動などで、地域で活動している人から聞き取りしたことを記録していくようにしましょう。

このシートを記録することで、住民が課題と思っていることや、民生委員、自治会長などの想いを整理することができます。

このシートは市町村社協内や支援関係団体で共有しましょう。そうすることで、地域に対して共通認識を持ち、地域支援者の横断的な連携による地域づくりに向けた支援をすることができます。

- **このシートが活用できる場面**
- ・地域の基礎的な情報を知る
- ・得られた情報を組織全体や支援関係団体で共有する



シート番号⑤

_____ 地区 地域活動者ヒアリングシート

年 月 日 現在

○住民・自治会長・民生委員・団体・支援者の思い

【地域の困りごとや新たに組み組みたい活動・地域への思い】	【地域で協力してもらいたい人・活用できそうな資源】

シート番号⑥ 役職一覧

このシートは、地域活動者が地域の中でどのような団体の役職を担っているかまとめたものになります。

地域の会合などに出席し、役職を把握し、記録していくようにしましょう。

このシートを記録することで、役職の重複などが一目で分かるようになり、また、誰に何をどのようにアプローチしていくのか判断ができるようになります。

このシートは、市町村社協内や支援関係団体で共有しましょう。そうすることで、地域に対して共通認識を持ち、横断的な連携による地域づくりに向けた支援をすることができます。

● このシートが活用できる場面

- ・地域のキーパーソン・パワーバランスを知る
- ・得られた情報を組織全体や支援関係団体で共有する



シート番号⑥

地区の役職一覧

年 月 日 現在

名前	自治会	公民館	民生児童委員	在宅福祉員	保健推進員	食生活改善推進員	子ども会	女性の会	人権回和教育	保護司	更生保護女性の会	交通安全協会	青少年育成協議会	リサイクル推進員	老人クラブ	地区社協	備考 (地域への思い・パワーバランス・人間関係など)	

シート番号⑦ 地域分析シート（ワーカーの気づき・認識）

このシートは、担当地域に関してワーカーが気づいた地域の強みや課題、望まれる支援についてまとめたものになります。

日ごろの地域支援活動などを通じて、ワーカーが気づいた点を記録していくようにしましょう。また、地域への活動記録を、振り返ることで地域の強みや課題に気づく場合もあります。定期的に活動記録を振り返り、分析を行うようにしましょう。

このシートを記録することで、地域の長所や困りごと、地域支援計画がまとまり、地域にどのようにアプローチするかを整理することができます。

このシートは、市町村社協内や支援関係団体で共有しましょう。そうすることで、地域に対して共通認識を持ち、横断的な連携による地域づくりに向けた支援をすることができます。また、地域住民が気づいていなかった地域の強みや課題について、住民とも共有することで、地域支援に繋げることができます。

● このシートが活用できる場面

- ・地域データ、情報を地域に還元する
- ・地域への支援業務を可視化する



シート番号⑦

_____ 地区 地域分析シート（ワーカーの気づき・認識）

年 月 日 現在

(1) 地域の強みや良いところについて

--

(2) 地域の課題や生活福祉課題（地域の困りごと・心配事）

--

(3) 今後の展開、望まれる支援・方策について（地域支援計画）

--

シート番号⑧ 地域支援記録

このシートは、ワーカーの日々の活動をまとめたものになります。

日々の地域支援活動を記録していくようにしましょう。

このシートを記録することで、組織内関係者で共有したいことを記録に落とし込むことができます。また、日々の活動記録をつけることで、業務の見える化ができ、関係機関への共有がしやすくなります。

注意すべき点として、長くなりすぎないように記録することが求められます。長くなりすぎると読むだけで膨大な時間がかかり、振り返ることがなくなってしまうためです。

また、どの程度まで記録するかは、「後任者に伝えておきたいこと」を基準で考えるとよいでしょう。

このシートは、市町村社協内や支援関係団体で共有しましょう。そうすることで、地域に対して共通認識を持ち、横断的な連携による地域づくりに向けた支援をすることができます。

- **このシートが活用できる場面**
- ・得られた情報を組織全体や支援関係団体で共有する
- ・地域への支援業務を可視化する



番号	日	時	間	所要時間 (分)	対応職員	用件分類	相手・会議名・参加人数等	内 容
	：	～				※選択式		
	：	～						
	：	～					(1) 地域の取組みに参画した活動	
	：	～					(2) 地域包括ケアシステムの広報啓発	
	：	～					(3) 地域活動の支援	
	：	～					(4) 地域活動への訪問・資源調査	
	：	～					(5) 関係機関・専門機関訪問・連携	
	：	～					(6) 研修会・会議等への出席	
	：	～					(7) 内部打合せ	
	：	～					(8) 個別ケースの対応	
	：	～						
	：	～						
	：	～						
	：	～						

3. 地域アセスメントの目的・必要性について

地域アセスメントとは、**地域の特性や状況を把握・分析すること**です。

例えば、地域に学校があるとすれば、学校周辺には学生が集まる居場所があるのかといった問題や、高齢者が多い地域であれば、医療や交通のサポートが求められるなど、具体的な問題やニーズを分析します。

近年、地域にある課題は、例えば超高齢化や支え手の減少、世帯の単身化・孤立化などがあり、これが更に複合化し、「うつ・ゴミ屋敷・虐待・老々介護・貧困・ひきこもり」など、多種多様な課題が出てきました。

このような多種多様な課題に対して、一律な地域支援では対応することができません。

多種多様な課題を抱える地域住民、ひとり一人に対しては、その課題の背景にはどのような地域の特性や状況があるのか正しく理解しなければ、効果的な地域支援を行うことは難しいです。

そのため、地域の特性や状況を把握・分析する地域アセスメントは、地域にある課題を解決するために、とても重要な役割を担います。

地域アセスメントにより、地域の特性や状況を把握した後は、地域の課題を解決するため、**支援策を検討することが重要**です。

支援策を検討する際や、実際に支援をするには、市町村社協内や行政、地域住民などさまざま立場の人たちと関わることになります。

その際の、**情報共有として重要なのが地域カルテ**です。

地域アセスメントした結果を、地域カルテに落とし込み言語化・図式化することで、円滑で正確な情報共有を行うことができます。

4. 地域アセスメントの方法について

地域アセスメントは**地域と協力しながら進める**ことが大切です。

その目的は、個別支援や地域支援に必要な情報を把握し、分析・整理することにあります。

地域の本当に望んでいることは何なのかを理解することが重要になります。

地域住民以外にも、関係者・各種団体・専門職とどのように地域アセスメントを実施していくかを検討し、市町村社協だけではなく、**地域全体で取り組み**ましょう。

その方法は、いくつかの方法で行うことができます。例えば、以下の方法がありますので、それぞれの地域に合わせて実施してみてください。

(1) 既存統計データ等の収集と既存資源のリストアップ

地域アセスメントでは、新たな調査だけでなく、**これまでの調査結果を活用**することも大切です。

例えば、**国勢調査や地方自治体の調査**など、定期的に行われている調査は、現状把握や将来のニーズを予測する貴重な情報源です。

また、行政のホームページからは人口や世帯数、要介護認定率などの統計データが手に入ります。

これらの情報を集めるだけでなく、**地域にある資源もリストアップ**することが重要です。

(2) 地域住民・活動当事者・各団体・専門職との共有の場

地域アセスメントの方法として、地域住民や関係者が集まり、**ワークショップや座談会を行う方法**があります。

例えば、「地域の展望に関する懇談会」といった形で、地域の人口統計や社会資源などの基本的なデータを共有します。そして、地図上に社会資源の配置や利用状況を書き込んでいくことで、地域の利用可能な場所や必要な改善点を特定する手助けとなります。

同時に、新たな情報の発見や地域内の問題点の洗い出しにも繋がります。

議論の中で、地域の課題や将来の方向性を合意形成することが大切ですが、時には異なる意見が生じることもあります。

しかし、そうした場面においても、他者の意見を尊重し、なおかつそれぞれの意見を適切に述べる場となるように心掛けましょう。

意思決定プロセスにおいて、個々の視点や考え方を適切に表明し合うことが重要です。

円滑な議論の進行や、積極的な参加を促進するためには、適切な環境の整備や、参加が難しい人々の声にも耳を傾けることが大切です。

地域の課題の共有や、目指す方向性の合意形成がされないまま、地域づくりを進めることがないように留意しましょう。

(3) 地域住民との会話・訪問・インタビュー

地域住民との会話をする方法は、**行事参加や会議の参加、個別訪問**など様々な方法があります。人々が語る生の声の中に、重要な事柄が見えてくる場合もあります。

行事や会議に参加することで、**地域のキーパーソンを確認**でき、個別訪問では**ご近所同士のつながり**など、細かい個別課題の把握をすることができます。

もし、何か調査をしたいことがある場合は、調査したい内容の概要を提示しながらも自由に語ってもらうことを大切にしましょう。

さらに、相手が語る言葉から重要な部分に焦点を当て、その内容を深めていくように話を聴いていきましょう。

(4) アンケート調査

地域アセスメントにおけるアンケート調査は、地域全体の把握や課題の共有に重要な手段です。**具体的な地域課題の把握やより微細なニーズの理解を目指して実施**されます。

また、事業所や企業へのアンケートを通じて生活支援サービスを把握し、それを視覚化して地域全体と共有する手法もあります。

アンケート調査には自己記入式と他者記入式の区分や、郵送型と訪問型、最近ではWEB型があります。

注意点として、**アンケート回答者の属性が偏らないようにすることが大切です。**

(1)～(4)の方法はあくまで例です。

後述する取組事例では、鳥取市・米子市・倉吉市・智頭町・北栄町・南部町の各社協が取り組んでいる地域アセスメントの一部を紹介しています。

地域アセスメントを行う方法は様々ありますが、方法もさることながら、**地域と共にアセスメントを行っていくプロセスも重要**です。

地域に点在する素晴らしい取り組みに気付き、あるモノを組み合わせたり、必要なモノを作り上げたり、重複するモノを整理するなど、地域住民と協力しながら進めていきましょう。

そして、地域の状況に応じたアセスメント方法を検討し、**必要に応じて繰り返し実施**することが大切です。



5. 鳥取県版地域カルテを活用した地域アセスメントから地域支援への展開

今回、鳥取県版地域カルテを策定するにあたり、本委員会で活用・展開方法について議論を交わしました。

地域カルテは、シートに情報を記載し、埋めていくことが目的ではありません。

地域カルテはコミュニティワークなどの流れの一部であり、ゴールではありません。

地域カルテを活用し、**地域アセスメント**を行い、それを**地域支援**に活用・展開していくことが重要です。

今回、議論の中で出てきた、地域カルテの活用方法についてまとめましたので、参考にさせていただければ幸いです。

5.1. 地域の状況を知る

5.1.1 基礎的な情報

行政や関連機関のウェブサイトや調査を通じて、**地域の基本情報（高齢者や障がい者の状況など）を事前に把握し、記録**します。地域にアプローチする前に、まず地域の現状を把握することからスタートしましょう。

自分では得られない情報は、**地域に直接尋ねることが**大切です。地域に出掛け、何か分からないことがあれば率直に尋ねる姿勢を示すことで、地域の人々から受け入れられやすくなることもあります。これが地域へのアプローチのきっかけにもなります。

さらに、**自治会長や地域の役職の方の意向や、地域で実現したいことなどを聞く**ことも重要です。これは後で地域での活動を進める上で、良いヒントを得ることがあります。

● 活用できるシート

- 基礎情報シート
- 社会資源リスト
- 自治会シート
- 自治会等年間スケジュール
- 地域活動者ヒアリングシート

5.1.2. 地域のキーパーソン・パワーバランス

地域内のキーパーソンや組織、個人のパワーバランスを把握することで、**地域の誰に働きかけるべきか、誰がどの程度地域に影響力を持っているかなどを知ることが重要です。**

これによって、地域により効果的な働きかけが可能となります。反対に、これを把握していないと、地域との関係構築に支障をきたすことがあります。

地域の役職についている方の役職の重複と併せて、パワーバランスなどを備考欄にまとめることで、情報が一覧化されて把握しやすくなり、事前の準備に役立ちます。

● 活用できるシート

- ・役職一覧

5.2. 自分（社協）のことを知ってもらう

見ず知らずの人に、地域の住民は協力しようと思うでしょうか。

地域と関係を構築していくためには、自分（市町村社協）のことを知ってもらうことが必要です。

そのためには、**地域の会議や研修会などあらゆる機会を利用して地域に出掛け、自分や市町村社協のことをまずは知ってもらうことが大切になります。**

その際に、地域の基礎的な情報などを持っておくと、より効率的・効果的に働きかけができます。

また、**市町村社協が持っている情報を、地域にも提供することで、地域の信頼関係を構築できます。**地域住民にとって「地域のことをこれだけ知ってくれている、気にかけてくれている」と感じることは心強いでしょう。

地域のさまざまな情報を持っていることは、市町村社協の強みとなります。

さらに、関係機関にも情報を提供することで、地域の課題の共有、整理ができ、連携を図りながら地域支援につなげることができます。

● 活用できるシート

- ・基礎情報シート
- ・社会資源リスト
- ・自治会シート



5.3. 得られた情報を組織全体で共有する

これまでは、個々の担当者が地域に働きかけ、関係を築いてきた部分が多々あったのではないのでしょうか。

個々の担当者が地域との関係を築いた場合、その担当者が変わると、地域との関係がリセットされてしまう場合があります。

地域にとっても、それまでの活動が途切れてしまうことに繋がります。

個々の担当者が得た情報は、**地域カルテにまとめて、組織全体で共有**しましょう。

これにより、担当者が変わった場合でも引継ぎに活用でき、組織全体として地域との持続的な関係構築を進めることができます。

また、地域担当以外の部署が持っている情報も共有していくことが重要です。

組織内での情報共有により、方針や意識について共通認識を図ることができます。

広報担当部署にとっては、地域の動きを知ることができ、広報誌などに活かすことができます。

地域の情報だけでなく、社協として**地域に迷惑をかけた内容なども、部署を超えて共有**しておきましょう。

継続した関係づくりの中では、どのような経緯があったのか把握していないと、地域との信頼関係が揺らぐことに繋がります。

特に共同募金や市町村社協などの会費については、地域に協力をいただいている部分なので注意が必要です。

● 活用できるシート

- 基礎情報シート
- 自治会等年間スケジュール
- 地域活動者ヒアリングシート
- 役職一覧
- 地域支援記録シート



5.4. 地域データ、情報を地域に還元する

市町村社協の持っているデータや情報を地域に還元しましょう。

地域住民に、改めて地域を知ってもらうことで、地域のことを考えるきっかけになり、地域の課題などの気づきに繋がります。

そのような情報を提供出来ることは、市町村社協の強みとなります。

また、地域活動に取り組む中で、地域が変化した部分や、進展している事柄などを示すことで、地域の活動の意義を明確にし、**地域住民のモチベーションの向上にもつながります。**

活用できるシート

- 基礎情報シート
- 社会資源リスト
- 自治会シート
- 地域分析シート

5.5. 地域への支援業務を可視化する

日々の働きかけや支援を記録しておくことで、行政などへ市町村社協の業務を見せる化できます。また、後任者がどのように、どの程度働きかけていけばよいか、参考になります。

活用できるシート

- 地域支援記録シート
- 地域分析シート



6. 取組事例の紹介

今回、鳥取県版地域カルテを策定するにあたり、実際に本委員会の委員で地域カルテに取り組みました。地域カルテを策定する前から、独自にシートを作っており、地域アセスメントを行っていた市町村社協もあります。

この章では、取り組むに至ったきっかけや取り組み方、成果などについてまとめております。

また、各取組事例には、鳥取県版地域カルテ策定委員会にアドバイザーとして参加していただいている、日本社会事業大学社会福祉学部教授の菱沼幹男氏に、コメントをいただいておりますので、併せて参考にさせていただければ幸いです。

取組事例の一覧

- 南部町社会福祉協議会
住民との協働による地域カルテの活用
- 智頭町社会福祉協議会
地域アセスメントシートを活用した、職員間の情報共有と蓄積・意識の変化
- 米子市社会福祉協議会
自治会長への個別訪問による関係づくりと地域アセスメント
- 倉吉市社会福祉協議会
地域資源リストの作成と地域支援記録の活用
- 北栄町社会福祉協議会
自治会シートとヒアリングシートの活用
- 鳥取市社会福祉協議会
公民協働による社会資源パンフレットの作成



住民との協働による地域カルテの活用

南部町社会福祉協議会

活用
シート

・シート番号①～⑦

◆南部町の概要

人口 10,289人(3,919世帯) ※ R5.11.30時点

高齢化率 38.63%

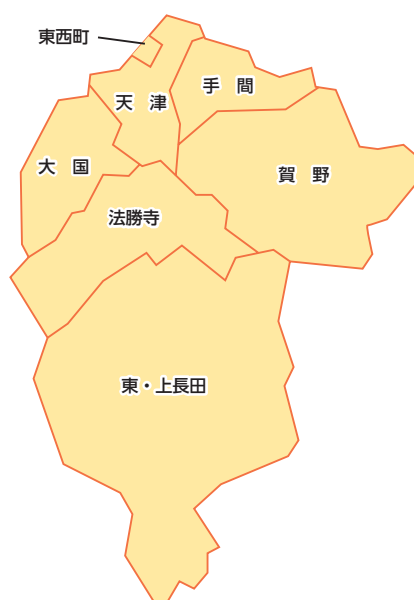
面積 114.03km²

小学校 3校

中学校 2校

自治会 100自治会

- ・まち全体が環境省の「生物多様性保全上で重要な里山」に選定
- ・県下有数の古墳密集地帯で「大国主命の再生・復活神話」が有名
- ・特産品の柿・梨・いちじくを中心にブルーベリー、ブドウ、いちご、メロンなどの果樹栽培が盛ん



南部町の地区別の地図

◆取組みの契機・きっかけ

南部町には、住民が自ら暮らす地域のあり方を考え、地域の力を結集して様々な活動に取り組み、魅力ある地域づくりを行う場として平成19年に7つの「地域振興協議会」が設置されました。平成29年に生活支援体制整備事業の中で、第1層生活支援コーディネーターを当社協が受けた事をきっかけに地域包括支援センターや南部町役場の担当課である健康福祉課と連携しながら「まちの保健室」や「100歳体操」など通じて地域福祉を進めてきました。

さらに今日の地域社会の現状と課題をあらためて整理し、新たな住民ニーズにきめ細かく対応することができる地域福祉を推進するため、令和2年に南部町地域福祉推進計画が策定されました。計画の中には重点取組が4つあり、その中のひとつに地域振興協議会における福祉機能の強化やコミュニティソーシャルワーカーの配置が挙げられています。令和4年、社協にコミュニティソーシャルワーカーが配置となり、生活支援コーディネーターと一緒に各地域振興協議会へそれぞれ地域の実情に合わせての取組を行政と連携し伴走支援を行っています。

南部町社協では日常業務において地域に出かけて行き地域住民と関わる中で、地域での暮らしでの困りごとなどの生活支援ニーズの把握に努めています。しかし、今まで収集した地域情報が社協内できちんとした体系でまとめられていませんでした。またコロナ禍もあったことで地域に出られなかったこともあり、近年は集落の情報が把握できていない状況でした。そのため、令和4年度から鳥取県版地域カルテ策定委員会での協議を通じ、鳥取県版地域カルテを活用し地域アセスメントを通じた地域支援の展開を実践していくことにしました。

◆取組みの方法・展開（活用方法等）

手間地区はあいみ手間山地域振興協議会を中心に10集落で形成され、令和5年4月に福祉コーディネーターが配置となり、手間地区交流拠点である「てま里」に福祉コーディネーターが常駐し、常設型サロン、認知症カフェ、野菜市などを展開しながら、相談窓口も設け、住民の方々からの困りごとなどの相談を直接受けるなどの地域福祉推進計画の取り組みを展開されています。加えて、手間地区では集落毎に関わって個別の課題にもそれぞれ対応していかれるとの考えのため、手間地区内の集落での地域アセスメントの実施を計画しました。今回、令和5年11月に支え愛マップ時の取り組みなどにより共助意識の高い三崎集落で社協がテーブルホストとして参加し、区長、副区長、民生委員、地域福祉委員、いきいきサロン代表者、農業実行組合長などの集落の方々とグループワーク形式で地域アセスメントシートを一緒に作成しました。

◆取組みの成果・課題（よかった点、苦労した点、失敗談等）

今回、地域アセスメントを実施させていただいた三崎集落の区長へ事前に聞き取りを行いました。その情報を基に各アセスメントシートへ記入し、模造紙に貼り付け参加者の皆さんに情報の確認、補足をしていただきました。参加者の方々から、「〇〇さんと〇〇さんは歩いて100歳体操へ参加している」「あの人に聞けば、三崎のことはなんでも知っているけどもう耳が遠くなって会話は難しい」など直接集落の生の声が聞けたことで地域の実情を把握することができたことが良かったです。



図1 地域アセスメントシートを作成している様子（当初）



図2 身を乗り出して話し合いをしている様子

参加者全員で地域アセスメントシートを確認した際、当初、特に男性陣からはなかなか意見がでませんでした（図1）、話し合いが進むにつれて、皆さんがアセスメントシートに身を乗り出して意見を出されるようになりました（図2）。当初、参加者の方々に付箋紙へ意見を書いて直接アセスメントシートへ貼ってもらう形式を考えていましたが、皆さん、意見は出るのですが、付箋紙には書かれなかったため、途中から社協職員が出た**意見を付箋紙に書き、アセスメントシートへ貼っていきました**。また、最後に地域分析シートについて、地域の強み・良いところ、困りごと・心配事について話し合ったところ、どんどん、地域の強み、良いところが出てきて、逆に困りごとについてはあまり出なかったため、地域の良いところ探しがうまくできたのではないかと思います。

反省点としては、

- ・手間地区の福祉コーディネーターや行政担当者も参加予定だったが、他の会議と重なってしまい、福祉コーディネーター、行政担当者は不参加となった。そのため、要介護者などの行政情報は未記入となってしまった。
- ・話し合いを平日の夜間に行ったため、時間が限られており、今後の展開までは進めることができなかった。
- ・話し合いの前に軽い体操や“好きなみそ汁の具は何？”を取り入れた自己紹介などアイスブレイクを実施したが、初対面の方々はすぐには緊張が解れなかった。
などが挙げられます。

◆今後の展開

今回の地域アセスメントの結果について、参加者の方々から地域振興協議会、行政と情報共有を行い、今後の地域福祉推進計画の取り組みに活かしていくことの了解をいただきました。地域アセスメント実施後、あいみ手間山地域振興協議会との地域福祉推進計画の進捗会議時に地域振興協議会、福祉コーディネーター、行政担当者へ三崎集落で地域アセスメントを行った結果、**地域の客観的な状況や地域の良いところ（優位性）**などが参加された方々と共有できたことなどを説明させていただきました。社協としては、**単独で地域アセスメントを行うのではなく、地域振興協議会、福祉コーディネーター、行政と一緒に集落毎に今回のような地域アセスメントを実施していきたいことを提案させていただきました**。

あいみ手間山地域振興協議会は来年度から地域づくり計画書が改訂される予定となっていました。今回の提案を受け計画書の改訂を先送りし今年度から来年度にかけて地区内の全集落を福祉コーディネーター、社協、行政と一緒に訪問し地域アセスメントを実施し、その結果を基に地域づくり計画書の改訂に取り組まれていく方針となりました。

今後、手間地区だけでなく、他の地区の地域振興協議会、福祉コーディネーターにも地域カルテの活用・展開を働きかけていき、地域アセスメントを実施していくことで地域課題や住民ニーズを把握し、課題解決に向けた地区ごとの取り組みに結びつけていきたいと考えています。



菱沼先生からのコメント

この実践の特徴は、住民とともに地域アセスメントを行っている点です。地域アセスメントは、地域に関わる専門職が行うものと思われがちですが、住民や多様な人々と一緒に行うことにより、それぞれが地域を多角的に見る視点を養う機会となり、また共同作業によって住民同士の関係性や、住民と福祉専門職の関係性を育む機会となります。

地域アセスメントは、それを行うこと自体が目的ではなく、地域アセスメントの機会を活かして、何を目指すかが重要です。工夫次第では地域の力が高まる機会にできることを示している実践と言えます。

この地域でもう一つ注目すべき点は「地域づくり計画書」の作成に取り組まれていることです。計画策定や改訂を通して、地域の人々が地域の状況を把握し、そこから必要な取組を話し合っていくというプロセスを経験することができ、ニーズに基づいた地域活動を生み出す力を高めていく大切な機会となります。



法勝寺の桜土手

シート番号③

〇〇〇〇自治会シート

〇年 〇月 〇日 現在

【自治会の特性・地域性】

(例)

班数 (4) 班 世帯数 (65) 世帯 自治会加入率 (100) %

- ・自治会の成り立ち、歴史など
- ・自治会内の環境 (社会資源、危険家屋、商店等)

〇歴史

- 〇〇古墳が古墳時代前期 (4世紀末) のものため、この時代から集落として成り立っていたものと思われる。
- 〇〇神社は康正2年 (1456年) から記載があるため、このときには現代の〇〇集落の形態となっている。

〇社会資源

- 〇〇山 12 筆 (土地)、公民館、ポンプ車他

〇危険家屋

〇空き家

1 戸

4 戸

【自治会活動の状況】

- ・年間行事 ⇒ 別紙参照
- ・自治会費 (15,000) 円 / 年程度 * 年度によって異なる。コロナ禍では約 10,000 円 / 年強だった。
- ・自治会の行事・活動、住民の交流状況 ⇒ 別紙参照
- ・役員状況 ⇒ 別紙参照
- ・役員改選時期 (1) 年に 1 回 次期改選年 (R6 年 1 月 1 日) * 原則は 1/1 ~ 12/31 だが、役目によっては 4/1 ~ 3/31
- ・組織体制、部会など ⇒ 別紙参照

【団体の状況・キーパーソン】

(例)

- ・民生委員児童委員、在宅福祉員、保健推進員、食生活改善推進員
- ・子ども会、老人クラブ、婦人会などの年間スケジュール ⇒ 別紙参照

〇〇集落のキーパーソンは誰？

☆ T・H さん

☆ S・T さん

【自治会内での困りごと】

- 〇日本全体の縮図である少子高齢化による年齢人口がいびつ化しており、高齢化率が高い。
- 〇未婚率が高くなっていく傾向がある。

〇

〇

活用したシートの抜粋 (自治会シート)

シート番号⑦

地区 地域分析シート（ワーカーの気づき・認識）

年 月 日 現在

(1) 地域の強みや良いところについて

- ・住民同士の繋がりが強い
- ・子どもが多い
- ・同居が多い（三世代）
- ・ハザードマップが赤くない（防災に強い）
- ・湧き水が豊富で他地区へ供給している
- ・世代交代が進んできている
- ・白鳥、コウノトリが飛んでくる
- ・〇〇市に一番近い

(2) 地域の課題や生活福祉課題（地域の困りごと・心配事）

- ・小学校が遠い
- ・今は車があるので、スーパーや病院へ行けるが、車が乗れなくなったら行けなくなるのが心配

(3) 今後の展開、望まれる支援・方策について（地域支援計画）

活用したシートの抜粋(地域分析シート)

地域アセスメントシートを活用した、 職員間の情報共有と蓄積・意識の変化

智頭町社会福祉協議会

活用
シート

・地域アセスメント基礎情報シート（出典元のシート）
出典：生活支援コーディネーター指導者養成研修テキスト

◆智頭町の概要

人口 6,281人（世帯数 2,685世帯）※ R5.12.1時点

高齢化率 44.76%

面積 224.7km²

小学校 1校

中学校 1校

自治会 87自治会

自治会加入率 99%



- ・約9割以上が山林、林業が盛ん。
- ・芦津溪谷、国定公園の那岐山、智頭宿など、観光資源がある。

◆取組みの契機・きっかけ

当会では、地域福祉グループの職員を例年3～4名配置しています。それぞれが事業ごとに担当を持ち、日々共有・協力しながら業務を行っていますが、数年に一度大きな壁にぶつかる感じていました。それは、人事異動や退職があった際に、去っていく職員が持っていた情報が残りにくいことです。もちろん日々の共有・報告はしていますし、業務に係るデータや文書は共有サーバーに残されています。しかしそれ以上に重要な、町内の強みやキーパーソン、地域特性などの「職員が地域に出向いて収集し、積み上げてきたきめ細かな情報」については共有がしにくく、一気に途切れてしまうことがありました。反対に、新しい職員が入ってきた場合は、古参の職員にとっては「当たり前の情報」だとしても、経験年数が少ない職員にとっては一から知ることになります。もちろん「自分で町内を開拓し、信頼を自らの手で獲得していくのと同時に、町内のことを深く知っていく」ことは社協職員として非常に重要ですが、退職や社協都合での人事異動により、一時的にでもグループ全体としてのスピード感や業務の質が落ちてしまうことに対し「どうにかしなければ…」と感じていた矢先、地域アセスメントシートの存在を知り、「これがあれば、経験が蓄積されていき、共有もしやすい。是非活用したい」と思った次第です。

よって、当会ではアセスメントシートを「職員間の情報の共有と蓄積・意識の変化」に重点を置いて活用している事例としてご報告いたします。

◆取組みの方法・展開（活用方法等）

（1）記録に残す取り組み

①旧小学校区単位でのアセスメントシートの作成

鳥取市社協から教えていただいたアセスメントシートを参考に、当会でのアセスメントシートを作成しました。

- ・ハード面での地域特性（地理的特徴、人口、公共施設、地縁組織 など）
- ・ソフト面での地域特性（ふれあいサロンやミニデイ、老人クラブの数、社協に協力していただけそうなキーパーソンになる方や、影響力のある方 など）

②気になった情報を記録表に記入する

町民の方から聞いてきた地域のお宝になる話や課題、悩みなどを共有しそびれることのないように、記録表に記載するようにしました。今までは、得た情報を口頭で共有していました。しかしその場にいなかった職員はその話を聞けませんし、反対に「全員が集まった時に言おう」と後回しにすると、今度は共有することを忘れてしまいます。それを防ぐことを目標としました。

（2）共有する取り組み

月に1回行う地域福祉グループ会議にて、新しく得た情報を共有しています。

例：生活支援コーディネーター（SC）が聞いてきた情報「Oさんが骨折してから外出機会が減っているらしい。その集落のふれあいサロンに加入しておられたようだが、今は行っていないようだ。」

→ サロン担当者としては「そのサロンは今でも活発に活動されている。しかしOさんが行かなくなられたとは知らなかった…」

→ 「今まで通いの場に出られていた人でも、骨折したりして身体機能が落ちた方は、“迷惑をかけるのでは”などと、周りに気を使って行くのをやめてしまう」という事案は、他にも沢山あるのではないかと（これは、サロンの事業を担当しているだけでは気づけなかった視点）

→ 「SCが提唱している“通いの場が社会とつながる場になる。ゆっくりでもいいから通いの場に行って、自分のできる範囲で参加し、つながりを絶やさないことが介護予防にも繋がる”という考えをサロン担当者も共有し、「無理ない範囲で誘ってみて」とサロン代表者にそれとなく提案してみる。

→ 担当や事業の縦割りではなく、グループが同じ意識をもって同じ目標に向かっていくひとつのきっかけになった。

（3）更新を都度行う取り組み

共有した後、「これは残しておこう」と決めた情報について、アセスメントシートの更新をし、残しています。

◆取組みの成果・課題（よかった点、苦労した点、失敗談等）

成果・良かった点

（1）情報量の職員格差が減った

目標としていた、経験が浅くても、担当外でも、一目で分かり参考になる物ができた。それにより、新しい職員でも、他部署や各方面からの問い合わせに、誰でも答えやすくなっています。

（2）共有忘れが防げている

記録表に記入することにより、情報が永く残るようになります。

それを数か月後に見返し「そういえば、自分はこういうことが引っ掛かったから記入したんだ」と思い出すことができます。そこから「まだ手を付けることができていないので、再度グループに投げかけ、どうやってアプローチするかを相談しよう」と思い返すきっかけになっています。

（3）グループ全体で一つの課題に取り組もうという姿勢が生まれつつある

担当ではない事業から入ってきた悩みや強みを聞くことで、個人の意識から「グループとしてどう対処するか」「どうアプローチするべきか」を考える意識へと変わってきていると感じています。

例えば「老人クラブが解散してしまいそうな地区がある」場合には「地区内のキーパーソンは誰か？そもそも老人クラブの目的とは何か？“通いの場が介護予防になる”という考え方を切り口に、せっかくできた集まりの場を、できる形で残していきませんか？と訴えてみよう」などと、グループ全体で考え、各方面から対処・アプローチするきっかけになっています。

課題・苦労している点

（1）地域アセスメントシートの記録を忘れてしまう

日々の業務に追われ、自分の心に残ったことや、課題だと思ったことを、記録に残す、そして共有する、という文化が、恥ずかしながら当会は弱いです。自分で対処したこと、集めてきた情報を「社協全体の引き出し・財産になるので共有しよう」と意識を持つまで、もう少しかかるかもしれません。

（2）地域支援記録表の記述が、グループ内で統一しづらい

「何をどこまで共有するのか」については、職員によって個人差があると感じています。

「全ての対応を記録しないといけない」と感じている職員は、細かい情報(例：〇さんに「●●は最近どうなっているか？」と問い合わせを受けたので「〇〇です」と返答した。)を入力してしまっていますが、そうすると記録が膨大になり読み返す手間も膨大になってしまうので、細かいやり取りや問い合わせへの返答については極力口頭での共有を求めています。

反対に、口頭で共有したことでも「今後も継続した課題として対応しないといけない」と思う件については、「記録に残してください」とお願いしています。

残しておきたい情報が人により違う、そのあんばいをグループ内でどう統一を図るか、どうやって分かりやすい線引きをするかが、現在の課題です。

◆今後の展開

- (1) 蓄積された情報を基に、課題をどう解決していくのか、そのアプローチを、担当の職員一人ひとりで考えるのではなく、グループ共通の課題として捉え、検討する手法をもっと学んでいく必要があると考えます。日々の業務をしながら共有と検討に時間を割くことになるので、どのように効率的に共有・検討できるかが手探りの状態です。
- (2) 今作成しているシートは、社協内部で使用することを前提としたものです。社協内部で活用することによって、職員間に情報が蓄積し、力を高めていくことができます。しかし、理想としては、社協内部だけで活用するだけでなく、蓄積した情報を必要に応じて、行政や住民、協力団体等の外部に向けて、情報提供できるよう整備することで地域づくりに役立てることができればと考えています。



職員会議の様子



菱沼先生からのコメント

この実践の特徴は、地域に関わるグループ全体で地域アセスメントに取り組み、その過程を通して、個々の職員の力と組織の力の両面を高めようとしていることです。

また、地域に関する情報を、職員が異動しても後任者が分かるように記録しておこうとしている点も大切なことです。特に地域支援記録の作成においては、何をどこまで書けばよいのか迷うことがあります。この地域では、今後も対応の必要があると思われるものを記録として残しておくようにしており、これは組織として継続的にその地域を支援するうえで、とても重要なことです。将来、自分がその地域担当から外れ、後任者に直接引き継ぎができなかったとしても、記録を見てもらえれば大事なことが分かるように、という観点から地域支援記録を残していくことが求められます。

こうした地域支援記録は、個々の職員が自分の業務の中に、記録する時間を確保していくという組織風土の醸成も欠かせません。記録のための記録でなく、個々の力と組織の力が高まる大事な機会として組織全体で捉えていくことが大切です。



智頭宿 石谷家住宅

地域アセスメントシート基礎情報シート

地区名	〇〇地区	エリア	旧〇〇小学校区
-----	------	-----	---------

地域特性（ハード面・ソフト面）

地理的特徴	智頭町の中心地区、千代川、土師川、新見川が合流する、国道、自動車道、鉄道等交通の要所
交通アクセス状況	JR因美線、智頭急行、共助交通（のりりん）
生活環境（商店、金融機関など）	〇〇銀行、〇〇合同銀行、〇〇信用金庫、〇〇農協、〇〇郵便局
住宅状況	古くからある住宅地、アパート
地域活動の状況	地区公民館、部落公民館事業を中心とした地域活動。町内で唯一、地区振興協議会が無い
防災活動の状況	地区消防団（第1号車分団、河原町分団、本町分団、市瀬分団、上市場分団、本折分団、久志谷分団）、支え愛マップ作り（12集落/22集落）、河一防災委員会、上町 指定避難所：〇〇小学校、〇〇保育園、〇〇幼稚園、〇〇中学校、〇〇総合センター、〇〇体育センター、〇〇会館 福祉避難所：〇〇〇〇 指定緊急避難場所：各集落公民館、集会所等 ※町防災計画参照
相談できる場所	智頭町（福祉課、地域包括支援センター、教育課、中央公民館）、地区社協心配ごと相談、智頭地区公民館

基礎情報（2023年12月1日時点）

人口	2,715	世帯数	1,229	世帯平均人数	2.2	高齢化率	41.7%
(0～4歳)	54	(15～64歳)	1,336			高齢人口 (65歳以上)	1,325

地縁組織

種別	状況（構成人数、加入率、状況、活動内容、歴史、キーパーソン、多組織との関係性等）
町内会・自治会	市瀬・湯屋・中島・鳥巣・板井原・錦町・下町・中町・上町・上市場・本折・奈留・米井・岡田・沖代・本折・河一・河二・河三・河四・久志谷・段・上段・緑ヶ丘・青山台・杉の香団地・駅南団地
地区公民館	地区公民館（館長：〇〇 〇〇 囑託：〇〇 〇〇、主な活動・事業：区民運動会、球技大会、杉の子塾）
地区振興協議会	無し
地区社会福祉協議会	地区社会福祉協議会（会長：〇〇 〇〇）
地区民生児童委員	地区民生児童委員（〇〇 〇〇、〇〇 〇〇、〇〇 〇〇、〇〇 〇〇、〇〇 〇〇、〇〇 〇〇、〇〇 〇〇、〇〇 〇〇）
地区老人クラブ	松寿会（会長：〇〇 〇〇、副会長：〇〇 〇〇、会員：40名、平均年齢：81歳）
青少年育成指導員協議会	地区指導員（〇〇 〇〇、〇〇 〇〇、〇〇 〇〇（町青少年育成副会長））
婦人会	無し
スポーツ推進委員	地区担当推進委員（〇〇 〇〇、〇〇 〇〇、〇〇 〇〇）

ボランティア・NPO・当事者活動

団体名	活動内容・キーパーソン
ミニデイ	〇〇〇〇会（本折）、〇〇〇〇〇〇〇〇（上町）、〇〇〇〇集団（久志谷）、〇〇ミニデイ（下町、〇〇 〇〇）、〇〇〇〇（河一、〇〇 〇〇）、〇〇〇〇の会（中島、〇〇 〇〇）
森のミニデイ	〇〇〇〇〇〇〇〇（智頭町シルバー人材センター、ひまわり会館2階、月・金 9-16、3,000円/月、昼食 500円）
ふれあいサロン	ゆったり体操（〇〇 〇〇）、生命の貯蓄体操智頭二部道場（〇〇 〇〇）、生命の貯蓄体操智頭三部道場（〇〇 〇〇）、絆（〇〇 〇〇）、つどい、河三すこやかグループ（〇〇 〇〇）、楽笑サロン（〇〇 〇〇） どうだんつつじ踊りの会（〇〇 〇〇）、上町いきがい茶道サロン（〇〇 〇〇）、智頭柔道クラブ（〇〇 〇〇）、くしだにふれあいサロン（〇〇 〇〇）、久志谷ふれあい食堂（〇〇 〇〇）、下町サロン（〇〇 〇〇）、しゃべろうや（〇〇 〇〇）、中町いきいき会（〇〇 〇〇）、さくらの会（〇〇 〇〇）、不苦朗（〇〇 〇〇）

【地域福祉 G 聞き取り表】

番号	受付者	日時	地区	集落	相手	内容	感想	種別	備考
42		3月15日	山形		〇〇民生	一人暮らしの男性?で、高齢者ではないが、気になるが、直接話しにくい。よく歩いているので、体は丈夫そうだが、病気かな? (心の?)と思う。 →まずは近くの人に聞いてみて、情報を集めてはどうか、と言う話になった。	今後連絡が来るかもしれない。ないかもだけど。		
43		3月15日	山形		〇〇民生	〇〇民生が、大変まじめで、色々やらないといけないのではないかと気負っているので「気楽にいこうよ」と常々言っている。定例会では、お互い本音を話せるようにしたい。	〇〇民生は、民生委員の立ち位置?距離感?役割?をよくわかっておられるなど改めて感じた。		
44		3月15日	山形		〇〇民生	気になる高齢老夫婦世帯がある。妻は寝たきり?のようで、夫は耳が遠く訪問しても出てこない。ヘルパーさんが来ているようなので、まあ良いかなとは思いますが、気にはなっている。 →社協のヘルパーだと判明したので、ヘルパー訪問時に〇〇さんが訪問し、顔つなぎしてもらうことにした。			
45		3月17日	智頭		包括〇〇さん 〇〇民生	〇〇さんに愛の輪は付いているか?と尋ねられた →そのあたり一帯はついてない。(本折は付いてる) →今は要介護(担当:〇〇氏)だが、今後要支援になりそうとのこと。4月からひまわり会に出る意向有。少し離れたところに家があるので、心配ではあるので、愛の輪必要かどうか、〇〇民生から本人に聞いてくれるよう依頼した。			
46		4月3日	那岐		〇〇さんと〇〇さん	ミニデイの取材時に聞いた話。ミニデイが始まる前と後、時間があつたらキャッチボールをしている。最初はボールが川に落ちたり大変だったが今ではそれも無くなるほど上達した。	2人でやってるが5人に増えればサロン登録したいなどのこと。運動不足の男性でキャッチボールくらいならという方がいれば繋げてあげたらと思う。	趣味	
47		5月8日	智頭		包括〇〇氏	「よりそい」で〇〇さん、〇〇さん?などが居場所作りによる気になっておられたが、〇〇さんの異動と共に「児童館は児童以外の目的では使用できない」という方針になり(というより、今までもそうだった)、今後は児童館に高齢者が集まりにくくなる。よって活動は衰退するかもしれない。(100歳体操、茶話会)子どもも高齢者との交流を楽しんでいたのが残念。ミニデイ組(〇〇氏、〇〇?氏など)との派閥が歩み寄れそうだったのに、残念。	サロンやミニデイでのサポートができないか?問題は「場所(箱)」だけなのか?場所があれば解決するのか? →せっかくできた居場所なので、聞き取りの必要ありかも。		
48		5月19日	智頭		〇〇氏	〇〇元民生の、物忘れが出てきた気がして気になる。最近では回覧板を逆に回していた。何か役割を継続して持ってもらう、ほけ防止をしたら良いのではと思うが、本人は「やれ終わった」と言う感じでその気はない。	直接「声掛け活動は継続してもらえないか?」と話したい。それにより、〇〇さんにとっても活性化になるならなお良し。		
49		2月28日	土師		〇〇さん	マップづくりステップアップ事業で去年の世話人をされていた。生活時間帯が昼夜逆転しているのか連絡もつかないこともある。 新しい世話人さんからも家に電気がついてることも確認できるが連絡が取れない。先日の会合も欠席。集落の住民さんも「変わり者がいなくて会合がスムーズに終わったな」と言われていた。	マップ作りの話から、色々な話を聞くが周りからも良く思われていないようで孤立している。今は元気な様子だが・・・今後心配な方	ひとり暮らし	

自治会長への個別訪問による関係づくりと地域アセスメント

米子市社会福祉協議会

活用
シート

- ・自治会長訪問・まち歩き記録 シート番号③・⑤・⑦を組み合わせたもの
- ・日報 シート番号⑧に類似したもの

◆米子市の概要

人口 145,135人（世帯数 68,709世帯）※ R5.11.30時点

高齢化率 29.59%

面積 132.42km²

小学校 23校

中学校 11校

自治会 414自治会

- ・道路、鉄道、空港などの利便性が高く、古くから地域の交通結節点・宿泊拠点、人の行き来が盛んな「山陰の商都」として栄えた。
- ・海に湯が沸く皆生温泉はトリアスロン日本発祥の地。
- ・米子城跡は令和4年NHK 日本最強の城スペシャルにて「一度は行きたい絶景の城」に選ばれた。



米子市の地区別の地図

◆取組みの契機・きっかけ

米子市では、令和元年度から市委託のモデル事業として1公民館区に米子市社会福祉協議会のコミュニティワーカー（以下、CWという）が配属されました。令和2年度にはモデル事業として新たに1公民館区が増え、CWも1人増員しました。令和4年度から現在までは7公民館区を4人のCWで担当しています。

担当CWとして手探り状態の中で活動していましたが、他県の好事例などを参考に地域アセスメントを実施しました。アセスメントを進める中で、公民館区全体をとらえることも大切ですが、各自治会単位の現状や課題を把握することが必要だと感じ、自治会長訪問をすることになりました。自治会長様から頂いた情報を有効活用するためには、知りたい情報を項目ごとにまとめ、様式を統一することが必要不可欠でした。これは各CWの聞き取り内容を標準化すると共に担当者の変更やCW不在時などでも対応できるように共有できるものとなっています。

さらにCWが増えたことにより、地区別に作られていた行動記録ではお互いの活動がわからなかったり、忙しい中では参考にしたい活動なども、情報共有できなかつたりすることが増えてきました。その為、CW業務においては共有の日報を作成し、お互いの活動が分かるようにしています。

◆取組みの方法・展開（活用方法等）

公民館区の自治会長連絡会において自治会長訪問の目的や趣旨を説明し、了解を得てから個別に各自治会長に連絡し、訪問の約束をしています。直接、お会いして聞き取りしたことや、まち歩きの状況などを記入しています。CWの担当地区が変更になったとしても、誰にでもわかるような共通記録として整理しています。

地域アセスメントや自治会長訪問を通して、見えてきた課題について支え合い推進会議を開くなど、課題解決に向け取り組んでいます。

◆取組みの成果・課題（よかった点、苦労した点、失敗談等）

自治会長訪問に取り組んだことで、地区内の詳しい状況が見えてきました。自治会の課題を考えるきっかけとなったり、役員の方々とCWの顔の見える関係づくりのきっかけになったりと、自治会長の困りごとを解決できる窓口の1つとしてCWが認識されるようになりました。支援が必要な方について、今まで顔を合わせる機会のなかった行政、専門職や地域住民等の情報共有の場「支え合い推進会議」を作り、支える体制づくりに取り組みました。大きな成果は見えにくい活動かもしれませんが、小さい困りごとから見えてくる課題に取り組むことで地域全体の問題解決の一部になっています。

CWが日報を共有することでお互いの活動の参考にしていますし、簡易な支援記録や経過記録も兼ねている為、担当CW不在時にも対応がしやすい環境になっています。データ分類入力にしていることで報告書作成やデータ作成にも有効です。

◆今後の展開

現在4人のCWで7公民館区を担当しており、自治会長訪問記録は担当地区が変わっても活用できていますが、地域の変化に伴い見直しが必要と考えています。地域アセスメント結果を基に、再度の訪問や課題解決に向けて取り組む予定です。

日報は報告書式の変更に伴い項目内容も変えていきます。将来的には他部署との日報の共有化も検討していかなければならないとも考えます。



菱沼先生からのコメント

この実践の特徴は、自治会長への訪問による地域アセスメントです。地域アセスメントとして、社会資源リストの作成や統計データの整理を行うことも大事ですが、地域支援においては、その地域の人々の想いを知ることが、何よりも重要です。

そのため、自治会長や民生委員など、地域で活動されている方の声を直接聴く機会を意図的に設けることが大切であり、これは自治会長の会合や民生委員協議会の会合に顔を出すということだけではありません。個々に話を聴く機会を設けることであり、さらに自治会長へ訪問する際には、その自治会の活動や課題になっていることを教えてもらうという姿勢で臨むことが大切です。自治会の課題に対して、誠意をもって対応を考えることで自治会長との関係が築かれ、社協活動や担当職員の問題意識を知ってもらえるようになります。

また、この地域では日報としての記録をつけることによって、社協全体で地域支援の状況を確認できるようにし、さらに、報告書作成を考えて記録の項目を整理していることも大切な取り組みです。



米子城跡から見た米子の街並み

日 時：R . . . : - :
 自治会長：
 C W：

【自治会の特性・地域性】	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 班数、世帯数など ・ 自治会の成り立ち、歴史など ・ 自治会内の環境（社会資源、危険家屋、商店等） ・ 子ども、高齢者の状況 	
【自治会活動の状況】	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 自治会費 ・ 自治会の行事・活動、住民の交流状況 ・ 役員の状況 	
【他団体との連携】	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 民生、在宅、保推、食推、老ク ・ 場所の提供を受ける代わりに、草取りを 	
【地域での困りごと】	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 役員のなり手、後継者不足 ・ 集まる場所 ・ ゴミの管理（ゴミ置き場、不法投棄、適切に分別されていない、荒らされる） ・ 買物をする場所 	
【地域で新たに取り組んでみたい活動・地域への思い】	
<ul style="list-style-type: none"> ・ ふれあい・いきいきサロン活動を活性化させる ・ 空き家を集会所として活用する ・ 支え愛マップ、自主防災組織の活動 ・ 支え合いの仕組み ・ 企業の駐車場を災害時の一時避難所に活用したい 	
【それに対する課題】	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動したいが、集まる場所がない ・ 空き家の活用を考えているが、持ち主が時折帰ってくるため、活用しづらい ・ 協力者が少ない 	
【活躍してもらいたい人材】	【活用できそうな地域資源】
<ul style="list-style-type: none"> ・ 個人名 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 空き家 ・ 商店 ・ 団体

【今後の計画等】
【その他】

日 報

担当地区、業務分類、カテゴリ、手段、時間内/時間外はリスト化し選択する事で記入時間の省略化と統計がスムーズ

担当地区とそれ以外を色分けすることで見やすくする。

リスト内容は報告書式やデータが取りやすい内容で変更

どのCWが関わったか

業務内容の補足等を誰にでも理解できるように詳しく説明。

担当/その他	地区	自治会	業務分類	業務カテゴリ	業務内容	相手・会議名・参加人数等	月	日	曜日	手段	所要時間(分)	時間内/時間外	社協対応者	説 明	重層
担当地区	〇〇	-	【1】住民活動の支援・推進を図るために必要となる事業	【1-2】地域資源の実態把握	〇〇子育てサークル支援	〇〇クラブ親子8組、〇〇主任児童委員			月	訪問	90	時間内			
担当地区	〇〇	△△	【1】住民活動の支援・推進を図るために必要となる事業	【1-3】サロン・居場所づくり	〇〇サロン支援	〇〇サロン世話人 代表 〇〇氏他 参加者〇名			火	訪問	90	時間内		世話人〇〇氏よりサロンのマンネリ化と参加人数が減ってきたこと等の相談があり活動支援の依頼あり。フレイル予防体操、脳トレ等を実施。参加者の状況確認し今後のサロンについての〇〇をした。	
担当地区			【1】住民活動の支援・推進を図るために必要となる事業	【1-2】地域資源の実態把握	〇〇事業所見学	〇〇代表 〇〇氏他			金	訪問	60	時間内		施設の概要について説明を聞き、実際に子どもたちが利用している様子を見させてもらった。	
その他			【4】その他地域福祉の推進を図るために必要となる事業	【4-1】研修会への参加	〇〇〇〇研修会参加	「〇〇について」講師〇〇 〇〇氏 参加者 市町村社協職員約〇名			土	訪問	240	時間外		〇〇研修会に参加し〜についての研修を受けた、〜の事が〜で〜だという事の内容であった。参加者は社協職員が対象。	
その他															

地域資源リストの作成と地域支援記録の活用

倉吉市社会福祉協議会

活用シート

- ・地域資源リスト シート番号①、シート番号②-③を組み合わせたもの
- ・生活支援コーディネーター活動記録 シート番号⑧に類似したもの

◆倉吉市の概要

人口 44,243人（世帯数 20,508世帯）※ R5.11.30時点

高齢化率 35.0%

面積 272.06km²

小学校 12校

中学校 5校

自治公民館 218自治公民館

- ・昔ながらの白壁や商家の町並みが保存される白壁土蔵郡・赤瓦
- ・鳥取二十世紀梨、極実西瓜、プリンスメロンの生産地
- ・旧倉吉線廃線跡、レールが残存する竹林や遊歩道桜並木
- ・関金地区は、星がきれいにみえるまちとして指定



倉吉市の地区別の地図

◆取組みの契機・きっかけ

地区社会福祉協議会や自治公民館、民生児童委員、地域包括支援センターなど様々な機関と連携しながら、地域の課題を把握し、その解決のために情報共有を行っています。

倉吉市社会福祉協議会は、平成31年から生活支援コーディネーターが、地域で暮らす住民の生活実態と集いの場への参加状況について、住民から聞き取りを行ってきました。その中から、地域の事業やふれあい・いきいきサロン、老人クラブなどの活動状況を聞き取りました。その結果を地域支援に活用するために、日々の記録として残すことで、地域課題の把握をすることをしています。

そして、住民の集える場や老人クラブ活動などを地区ごとにまとめた「地域資源マップ集いの場編」を令和2年3月に作成し、これをきっかけに令和5年3月には、地域資源マップの見直しを行い「地域資源リスト」として作成を行いました。

◆取組みの方法・展開（活用方法等）

日々の活動の記録は、各地区のコミュニティセンターやサロン、自治公民館などで行っている事業へ出かけた際に、参加している高齢者から聞き取った情報を記録にまとめています。そこで見えてきた課題と今後の方針を倉吉市役所長寿社会課と毎月SC(生活支援コーディネーター)連絡会を開催し、協議していく中で関係機関へ情報提供できる成果物として、地域資源リストを作成し、地域活動をまとめていきました。

(1) 高齢者の生活実態や地区の課題を把握するために出かけた活動先・関係機関

- ①地区サロン・カフェでの聞き取り
- ②地区相談会での把握
- ③ふれあい・いきいきサロン世話人交流会
- ④ふれあい・いきいきサロンなど集いの場
- ⑤支え愛マップづくりの場
- ⑥地区社会福祉協議会等役員会
- ⑦民生児童委員定例会
- ⑧地区・町内福祉懇談会
- ⑨福祉協力員研修会
- ⑩地域包括支援センターとの情報交換会
- ⑪高齢者の聞き取り調査
- ⑫地区行事等での聞き取り調査

(2) 地域資源リストの活用方法

各地区・自治公民館の基本情報や集いの場の開催状況に関する情報を掲載し、地域包括支援センターや居宅介護支援事業所などに配付しています。それにより、ケアマネジャーなどが、地域における高齢者の社会参加の場を確認し参加を促すことや、支援計画作成に役立てていただけるように働きかけています。

また、地域活動を住民と共有するため、地域の「話し合いの場」や「福祉懇談会」などでも活用しています。

◆取組みの成果・課題（良かった点、苦労した点、失敗談等）

成果・良かった点

- (1) 把握した地域資源を可視化することで、地域への情報提供が円滑に行えるようになりました。
- (2) 地域の情報を資源マップに落とし込むことで、地域包括支援センターなどと情報共有が正確でスムーズに行うことができるようになりました。
- (3) 生活支援コーディネーターの活動記録は、日々の活動を記録し、積み重ねていくことで「地区のまとめ」として振り返ることができ、地区の現状や課題、今後の展開などが見えてくるようになりました。

課題・苦労した点

- (1) 生活支援コーディネーターの活動記録は、活動が活発になるにつれ、様式や項目変更が必要になってきました。活動記録も1か月の活動を一覧にすることで活動がより一目でわかりやすくなる現在の様式へ変更してきました。
- (2) 資源マップを最初に作った時は、地図に地域資源を示した図で作成していましたが、配付した関係機関から「見づらい」「わかりにくい」との声があり、実用的ではなかったことから、改良し、各地区・自治公民館に地域資源が一覧表となる形に変更しました。

◆今後の展開

令和5年度から、生活支援コーディネーターが地域包括支援センターごとに1名配置されたことで、より関係機関との連携がとりやすくなってきています。そのため個別のケア会議へ参加することも増えてきており、地域資源の情報を伝えられるようになっていきます。地域の課題を解決するために、他地区の活動を参考にしたいところもあるため、市内の他地区の情報を円滑に提供することができ大変喜ばれています。

また、高齢者が集いの場へ参加することで地域（人）とのつながりができ、そこに参加することが生きがいとなったり、社会参加の場となっています。

今後も、活動記録を活用したSC連絡会を開催し、倉吉市役所長寿社会課をはじめ関係機関と情報共有していきます。地域住民だけでは、解決が難しい課題について第1層協議体で検討していけるような話し合いが必要になり、より具体的で鮮明に地域課題を提言していけるよう働きかけていきたいと思っております。



菱沼先生からのコメント

この実践の特徴は、「地域資源マップ」や「地域資源リスト」を関係者と共有して、活用につなげている点にあります。こうしたマップやリストは、作成した後にあまり活用されないという場合も少なくありません。

この地域では、介護支援専門員などへ配布することによって、地域の多様な資源の活用をケアプランに位置づけてもらおうとしています。介護支援専門員等にとって貴重な情報であり、また地域支援者とつながる機会にもなります。また、地域での話し合いの場でも取り上げることによって、多くの人々と共有できるようにしており、作成後の活用がしっかりと行われている実践です。

この地域では、生活支援コーディネーターの活動記録も作成後の活用がなされている点も注目すべきことです。他の地域では、日々の活動記録を作成した後にあまり活用されない場合も多くあります。しかし、この地域では、個々の職員の振り返りとともに生活支援コーディネーター連絡会での話し合いの際に活用されており、こうしたことは、記録者が日々記録を書く際に、何に焦点を当てればよいかを考えるきっかけにもなり、記録技術の向上にもつながります。



倉吉白壁土蔵群

令和2年3月作成 地域資源マップ集いの場編

上北条地区 地域資源マップ 集いの場編

10自治公民館 1,006世帯 人口2,464人 高齢化率31.4%

介護予防(集いの場)
・ふれあいいきいきサロン8ヶ所
・まちの医院(個医院)、御詠歌
・井手畑集落内の近所仲間の自宅

買い物
・河北東宝ストア、ラムー、パープルタウン

移動支援・移動方法
・カーシェアリング(利用者 19名、運転手5名登録)
・昼下校送迎、買い物・通院可能
・バス、タクシー、自転車、自家用車、家族に同乗

【穴窪】 69世帯 193人 28.5%
★支え愛マップ H29作成

【小田東】 178世帯 444人 26.1%
◎小田東(老人クラブ) 43人
★支え愛マップ H28作成

【下古川】 115世帯 275人 32%
★支え愛マップ H28作成

【中江西】 106世帯 265人 22.6%
◎しあわせのたね(10~15人、参加率16.7%随時、介護予防とレクリエーション活動、季節行事や外出等)
★支え愛マップ H28作成

◎つくだ医院に毎日電気治療に通う高齢者が待ち時間をつかって井手畑会議
男:3割 女7割
・以前は送迎があったが、運転手の不在で送迎サービスを中止
・待合室に「ご自由にお茶があり、カフェとなっている。
◎御詠歌の会(怡蔵寺)
・参加者:男1割 女:9割(60代~80代)
・R2.3.4初開催/毎月1回開催

【大塚】 69世帯 165人 48.5%
◎大塚おたのしみ会(7~10人、参加率12.5% 月1回第3月曜日13:00~15:00 介護予防、レクリエーションや季節行事等)
・認知症予防教室から発展
・参加者:60代後半~90代女性
・参加者全員で紙芝居を盲読
★支え愛マップ H28作成

【井手畑】 76世帯 201人 26.4%
◎井手畑こぶき会(11人、参加率20.8%、月2回第2・4月曜日)
・閉じこもり、役割をもった社会参加が目的
・認知症予防教室から発展
・参加者:80代前半~90代半ばの女性
・毎月1回住民(介護施設職員)の協力がある
・参加者に役割がある(掃除、おやつ、準備等)
・自宅からの習慣、役割を継続している
・孫の登下校の見守りが日課(サロン参加者90代)
★支え愛マップ H27作成

◎集いの場(井手畑)
・近所の仲間同士で井手畑会議、カフェ
・毎日近所仲間の家に集まっている
集いは女性 2~3人 話好きな方
★支え愛マップ H27作成

【上北条公民館】
◎上北条いきいきサロン(8人、参加率0.8%月2回隔週月曜日13:30~、民謡:趣味活動)

【古川沢】 60世帯 143人 39.2%
◎まめまめクラブ(8人、参加率14.3%、毎週水曜日、認知症及び介護予防、レクリエーション活動)
・転倒予防教室から発展
・参加者:80代後半~90代半ば
・近所の仲間同士が集う
・90代半ば住民は地区公民館まで自転車で通っている
◎古川沢寿会(老人クラブ) 43人
★支え愛マップ H25作成

【小田】 99世帯 233人 39.9%
◎支えあいあじさいの会(10~15人、参加率10.8%、月2回 第2、4木曜日13:30~、介護予防・レクリエーション、外出等)
・県支えあい促進モデル事業から発展
・参加者:60~90代 男性2人、女性8人程度
◎小田(老人クラブ) 43人
★支え愛マップ H24作成

【新田】 104世帯 228人 39.9%
◎あつまら一会(10~15人、参加率11%月2回第2、4金曜日、介護予防とレクリエーション活動)
・認知症予防教室から発展
・参加者:70~90代女性
★支え愛マップ H28作成

【中江】 130世帯 317人 25.6%
◎チクチクサロン(10人、参加率12.3%月2~3回不定期)
代表者宅で開催
・身近に集まれる環境で、手指を使い生きがいが目的
★支え愛マップ H26作成

【ふれあいいきいきサロン】
◎集いの場・話し合いの場
★支え愛マップ作成
◎地域行事・サークル



改善

令和5年3月作成 地域資源リスト

【上北条1-1】

人口、世帯数:令和5年4月末現在
自治公加入率:令和4年10月末現在

地区名	人口(世帯数)	高齢化率	自治公加入率	集いの場地区サロン	地区相談会	なごもう会	ふれあい給食
上北条 かみほうじょう	2,387 (1,019)	33.3%	66.09%	—	—	第1.3火 9:45~11:15	第2.4水
話し合いの場		上北条みんなの安心委員会		・男性の活躍できる場づくりについて			
コミュニティセンター		☎ 26-1763		担当地域包括支援センター	うつぶき ☎ 26-6378 (上北条・社・高城)		
移動支援		共助交通		福祉協力員 (令和5年4月1日現在)	10名(対象者:11名)		

自治公民館名 (可燃ごみ収集日)	人口(世帯数)	高齢化率	ふれあい・いきいきサロン		老人クラブ(会員数)	支え愛マップ	公共機関 その他情報
			参加者数	主な内容			
穴窪 あなくぼ (水土)	181 (69)	35.9%	—	—	—	H29年度(促進)	・福祉協力員不在 ・交通空白地
大塚 おおつか (水土)	148 (69)	47.3%	7	大塚お楽しみ会(月1回) 体操・茶話会	—	H28年度(促進)	
中江 なかえ (水土)	315 (124)	29.5%	10	チクチクサロン(不定期) 趣味活動・茶話会	—	H26年度(促進)	・福祉協力員不在

生活支援コーディネーター活動記録（地域支援記録）

生活支援コーディネーター活動記録（令和〇年〇月）

- 〇〇 地区 内容区分 (①事業説明・啓発 ②地域資源・ニーズ把握 ③意見交換
④第2層協議体支援 ⑤会議・研修会開催
⑥外部研修会参加 ⑦内部研修会参加 ⑧第1層協議体 ⑨内部会議)

日時	SC	訪問・来所・電話	対象者	場所	内容	内容区分	意図 (ねらい)	結果	地区のまとめ
13日 (月)	朝倉		地区住民	訪問した先	介護予防教室				【集いの場・相談窓口】 (現状) (課題) (今後について)

訪問や来館だけではなく
電話での連絡・相談なども記録
として残すようにしている

上記にある内容区分
の番号を明記する



自治会シートとヒアリングシートの活用

北栄町社会福祉協議会

活用シート

- ・自治会シート(基礎情報シート) シート番号①・③・⑤を組み合わせたもの
- ・ヒアリングシート シート番号⑤に類似したもの

◆北栄町の概要

人口 14,451人 (5,493世帯) ※ R5.4.1時点

高齢化率 36.0%

面積 56.94km²

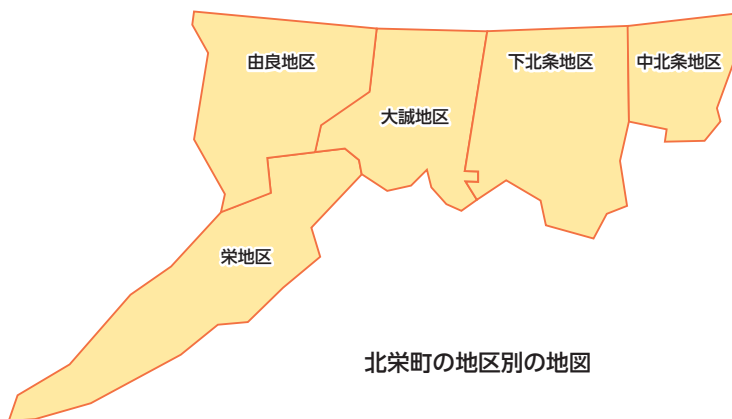
小学校 2校

中学校 2校

自治会 63自治会

自治会加入率 90%

- ・約7割は田畑と山林
- ・農業が盛ん(ぶどう、長芋、らっきょう、大栄スイカなど)
- ・名探偵コナン原作者の出身地



◆取組みの契機・きっかけ

本町では、令和2年度に町と社協の共同作業により、北栄町地域福祉推進計画を策定し福祉の課題解決に向け住民、行政、社協などが一体となって取り組む地域福祉を推進しています。

この計画の実行にあたっては、地区の特性や生活課題に応じて取り組みをすすめることが必要であるため、2地区(北条地区・大栄地区)で助けあい活動の推進を行っている「よっしゃやらあ会(協議体)」の活動を広げるとともに、具体的な取組みは、社会福祉協議会に配置のある生活支援コーディネーターと住民のみなさん、関係機関、団体などと互いに協力しながら進めています。日常生活における不安や悩み、生活課題が複雑化する中で、住民の声をより把握するためにも、自治会単位(63自治会)での話し合いの場「支え愛連絡会」の開催が重要な役割を果たすと考え、その時々自分たちの地域の強み、弱みの把握や地域課題を共有する(知る)ために、自治会シートを活用した地域へのアプローチを実施しているところです。

解説 見て! 聞いて! 遊んで! 地域福祉推進計画

基本目標Ⅰ 地域で支えあうしくみづくり

1 支えあい意識の高揚

まずは自分から
みんなひとりでは生きられません。誰かのために、自分のできることを見つけたら、できることから始めてみましょう。まずは声かけから「やさしい言葉の種をまきましょう!」



2 地域福祉活動・ボランティア活動の活性化

ボランティアでステキな人生!
地域の清掃活動やイベントの手伝い、見守り・防犯活動など、ボランティアには、いろいろな活動があります。自分の好きなこと、得意な活動を見つけましょう。



3 支えあい・見守りの充実

みんなの笑顔が広がる
自分の地域で困っておられる人はありませんか?こみ出し、除雪、買い物などの身近なことから助け合いを始めましょう。



A 社協ってなあに?

あなたと一緒に!社会福祉協議会
地域が抱えている様々な問題を、みんなで考え、話し合い、協力して解決をはかることを目的とした団体です。生活の困りごとの相談、ボランティア活動や団体の支援などを行っています。



基本目標Ⅲ いきいきと暮らせるしくみづくり

11 居場所づくり・交流の場づくり

誰もがつながるステキなところ
子どもから高齢者までだれもが、気軽に行ける居場所づくりや、日ごろから声をかけ、気にかけてあげる地域づくりが大切です。世代を超えた人とのつながりは、助け合いの関係を育みます。



12 社会参加・生きがいづくり

人生100年時代をイキイキと!
人にとって生きがいはとても大切なものです。人との交流が広がり、楽しみや健康づくりにつながります。どんなことでもよいので、趣味や生きがいを探しましょう。



13 健康づくり・介護予防

健康は日々の積み重ね
健診などで自分の身体の状態を把握し、健康づくり、介護予防につとめましょう。体操教室やサロンなどへの参加も有効です。



C 福祉ってなあに?

ふだんのくらしの「しあわせ」!
「福」も「祉」も、どちらも「幸福」や「幸せ」という意味があります。不安そうなる人もこころほほえむような、みんなの幸せが福祉です。



ダイジェスト版

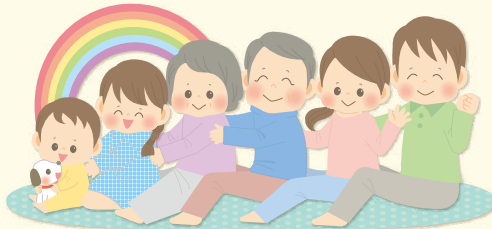
北栄町

地域福祉推進計画

2020年3月

～すべての北栄町民が主体となり、地域が舞台となる計画～

町の地域課題に対応し、住み慣れた地域で、いつまでもいきいきと暮らすことができるまちを築くため、町と社会福祉協議会の共同作業により、この計画を策定しました。



基本理念 みんなで支えあい えがおで共に暮らすまち 北栄町

福祉の相談窓口

機関名	相談内容	電話番号	
福祉課	福祉事務所 (福祉支援課) (生活支援課)	<ul style="list-style-type: none"> 障がい児・障がい者福祉に関すること 母子・ひとり親・児童福祉に関すること 生活保護・生活困窮者支援に関すること 複合的な課題を抱える世帯等への支援に関すること 	0858-37-5852
	障がい者地域生活支援センター	<ul style="list-style-type: none"> 障がい者福祉に関すること 	0858-37-5851
	介護保険課	<ul style="list-style-type: none"> 介護保険に関すること 高齢者福祉に関すること 	0858-37-5875
健康推進課	地域包括支援センター	<ul style="list-style-type: none"> 高齢者の介護や生活・介護予防に関すること 権利擁護(けいりようご)に関すること 認知症の人と家族の支援に関すること 	0858-37-5850
	健康づくり推進室	<ul style="list-style-type: none"> 健康に関すること 後期高齢者居宅制度に関すること 	0858-37-5867
町民課	消費生活相談窓口	<ul style="list-style-type: none"> 消費生活に関すること 	0858-37-5866
北栄町社会福祉協議会	<ul style="list-style-type: none"> 在宅福祉に関すること ボランティアの活動に関すること 	0858-37-4522	

北栄町福祉課・北栄町社会福祉協議会



支え愛連絡会の様子

◆取組みの方法・展開（活用方法等）

北栄町社会福祉協議会では、「支え愛連絡会」を開催するため、自治会長の家を個別に回り、内容や意義について説明し、推進しています。しかし、ただ推進するだけでは、なかなか開催されないこともあるため、具内的な地域の課題（例えば、スーパー閉店による買い物問題や見守りについてなど）を出し、身近な地域の課題を話し合う場として機能することを説明するように心がけています。

この連絡会は、自治会での見守り活動から出た課題を正確に把握して解決へつなげるものです。北栄町社会福祉協議会では、解決への支援のための知識や基本情報を収集するための手段として「自治会シート」の活用に取り組んでおり、この連絡会で出た情報や課題を「自治会シート」に落とし込んでいます。

この連絡会を重ねていくことで、地域の新たな魅力の発見や、支えあい・助けあいの活動のしくみづくりを考えることができ、住民相互の支えあい意識や地域福祉活動への参加意欲が高まっています。また、町民と社協・行政などが一緒に「地域福祉推進計画」を策定しており、第2期の改定へ向けての資料としても活用できています。

◆取組みの成果・課題（よかった点、苦労した点、失敗談等）

今後ますます少子高齢化が進むことが予測されることから、地域を支える人が減少していくのではないかと不安をもたれる自治会も多くあります。このなかで、地域やそれぞれの自治会の現状を知ることがまず必要ではないかと考えます。住民一人ひとりが「地域の担い手」であることに気づき、地域住民が主体となり、小さなことでも、それぞれができることを地域に広げていくきっかけとなりました。

住民主体の地域福祉活動の記録を継続することで、地域の現状が見える化でき、課題にあう支援や、また職員の支援の進行状況など記録として目に見えるようになりました。

苦労した点としては、「支え愛連絡会」の推進が、上手くいかなかったことです。それでも自治会長会や民生委員定例会で働きかけを継続しました。令和5年9月には、下北条地区のスーパーが閉店することをきっかけに、ニーズの把握も兼ね、自治会長の自宅に個別訪問し説明したところ、開催の必要性を感じてもらえました。現在は、開催される自治会が増えてきているところです。

◆今後の展望

- ・自治会シートでは、ゴミ出しのルールも記録しており、ひとり暮らし高齢者世帯などへの生活支援も充実させていきたいです。
- ・地域福祉推進計画の改定に向け準備を進めていますが、自治会の住民懇談会での意見が自治会シートに反映できるようヒアリングシートを作成しました。
- ・地域での支えあいの活動などを維持していくためにも、自治会の活動や人との関わりが大切です。地域を知る、自治会を知る、きっかけづくりを今後も進めていきたいです。



菱沼先生からのコメント

この地域の実践の特徴は、自治会単位での「支え愛連絡会」の開催と連動させる形で自治会シートを作成していることです。「支え愛連絡会」の開催にあたっては、個々の自治会長への説明を丁寧に行うことによって、自治会長との関係づくりをしており、自治会単位の「支え愛連絡会」だからこそ、そこで出された意見を自治会シートに落とし込むことができるようになっています。

自治会シートは、自治会の役員へのヒアリングを中心に書かれることが多くありますが、この地域では、さまざまな住民の声も自治会シートに記載している点が特徴です。

また、こうした記録を職員が業務として書いていくことで、職員間での情報共有と地域支援のあり方を組織全体で考えていこうとしている点や、地域福祉推進計画の改定に際しての資料として活用している点も注目すべきことです。



北栄町の風力発電と日本海

自治会シート（基礎情報シート）

自治会名	〇〇	地区名	大栄
------	----	-----	----

人 口	133人	世 帯 数	60世帯	65歳以上	42人	高齢化率	31.6%
福祉推進員	2名	愛の輪協力員	無	支え愛連絡会	無	支え愛マップ	無
老人クラブ	無	サ ロ ン	無				

自治会の特性・地域性	
<ul style="list-style-type: none"> ・町営住宅の自治会（A・B・C）3棟 3階建て ・ひとり暮らし高齢者世帯が多い（21世帯） ・近所のつきあいがなく、つながりがない ・自治会長任期は1年 	
自治会活動の状況	
<ul style="list-style-type: none"> ・自治会行事（総会、公民館の掃除2回/年）以前は運動会など開催していた ・子ども会、生徒会がない（登校班はある） ・高齢者等の集いの場がない 	
地域での困りごと	
<ul style="list-style-type: none"> ・ひとり暮らし高齢者世帯が増加（買い物や移動に困る方あり） ・どんな方が住んでいるかわからないので、災害時も心配している ・いきいきサロン等の集いの場がない ・各棟に除雪機はあるが、使用できる人がいない 	
地域で新たに取り組んでみたいこと・展望など	課題
<ul style="list-style-type: none"> ・いきいきサロン等集える場をつくりたい ・おしゃべり HOUSE を継続開催してもらいたい（集いの場のきっかけづくりR 3. 4. 5開催） ・子ども会をつくりたい ・話し合いの場（支え愛連絡会）の定期開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・集いの場の立ち上げができるよう、福祉推進員の設置を1名から2名に増やしたが、なかなか進んでいかない。高校生ボランティアや社協の協力を今後もお願いしたい ・顔なじみの関係づくり→協力者を見つける
移動販売等情報	ごみ出しルール
<ul style="list-style-type: none"> ・週に1回移動販売が来ていたが、利用者減により中止となった 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミステーション（公民館前1か所） ・鍵の施錠はない ・ゴミ出し 前日 18:00～（冬期 17:00～）

北栄町地域福祉推進計画策定に関する住民懇談会

自治会名 (地区名) : ○○ (大栄地区)

日 時 : 令和○年○月○日 (○) ○○ : ○○ ~ ○○ : ○○

場 所 : ○○公民館

参考 : 地域福祉キーワード

- ・生きがいづくり、生涯学習
- ・生活支援 (買い物、ゴミ捨て)
- ・生活環境 (住宅、交通、情報)
- ・個人情報
- ・健康づくり
- ・少子高齢化、人口減
- ・交流の場
- ・虐待
- ・バリアフリー
- ・ゴミ屋敷
- ・ひきこもり
- ・ボランティア
- ・生活困窮
- ・相談窓口
- ・孤独、孤立
- ・見守り活動、安否確認
- ・権利擁護、成年後見制度
- ・防犯、防災

自治会の特性・地域性 (強み)	暮らしたい、暮らしやすい地域 (良くなればいいな)
<ul style="list-style-type: none"> ・町営住宅の自治会で、どの方が住宅に住んでいるか、わからない、つながりが無い。(孤立状態、さみしい、知らん顔) ・ひとり暮らしが多い。 ・自治会から子ども会、生徒会への助成が以前はあった。(子ども会、生徒会は現在はない) 	<p>地域で新たに取り組んでみたいこと・展望</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども会をつくりたい。 ・いきいきサロン、こげないからだ体操を実施したい。
<p>困ったときに相談できる先があるか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近所に相談できる人はない。 ・民生委員がかけもちなので大変。 ・困りごとがあがってこない。 ・役員になっても協力しない人がいる。 	<p>自治会内のルール (役員、班長、区費、区費、ゴミ出しなど) ・その他</p> <p>*ゴミ出しのルールは融通がきくか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・役員は棟の階で選出 (自治会長、厚生部、健康推進部、社教部、会計) (役員免除は、介護保険利用者) ・区費 1,000 円 / 月 ・ゴミ出し 鍵施錠無し、前日 18 時から (冬期 17 時から) ゴミ出し可能。 ・除雪機は各棟にあるが、使える人がいない。

公民協働による社会資源パンフレットの作成

鳥取市社会福祉協議会

活用
シート

- ・地域アセスメント基礎情報シート（出典元のシート）
出典：生活支援コーディネーター指導者養成研修テキスト
- ・城北地区支え合いネットワーク シート番号②-1～②-3が発展したもの

◆鳥取市の概要

人口 181,398人（世帯数 81,979世帯）※ R5.11.30時点

高齢化率 30.67%

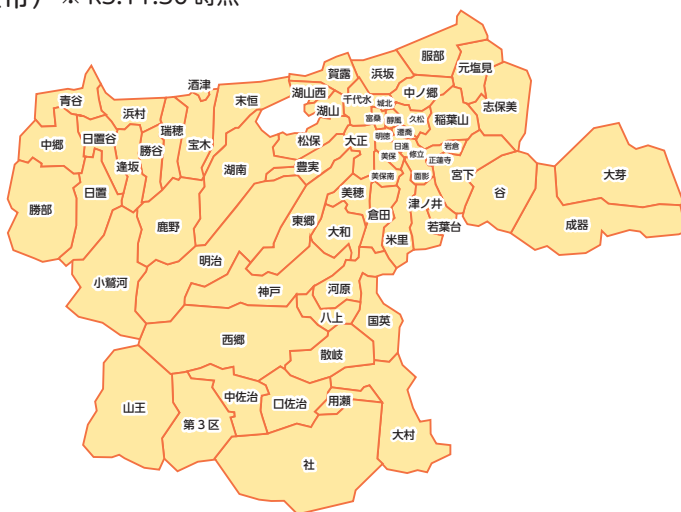
面積 765.66km²

小学校 39校

中学校 13校

自治会 831自治会

- ・10万年の歳月をかけて生まれた「鳥取砂丘」をはじめ、神話「因幡の白うさぎ」で有名な白兔神社や海岸、かつて32万5千石を誇った鳥取藩の鳥取城跡などの観光地が充実。
- ・温泉も多く、山の幸や海の幸も豊富な町。



鳥取市の地区別の地図

◆城北地区について

城北地区は約7,000人の方が暮らしており、世帯数では約3,000世帯となっている。年代別で見ると40歳台の人口が一番多く、65歳以上の人口比率が約20%と比較的若い世代が多い地区である。また、城北地区は公民館の利用者数が鳥取市最多と住民の活動が活発である。

◆取組みの契機・きっかけ

城北地区にある団体や住民から現在直面している困りごとを生活支援コーディネーター（地域支え合い推進員）が聞いていた中で育児サークル訪問時に「使わなくなったベビー用品や子育てが終わって不要になったものがあれば提供してほしい」という声を聞いた。転勤などで転居してきた人も多く、知り合いや家族とも離れている中で様々な情報やつながりが欲しいというような声もあり、リユース事業をするに至った。準備やリユース当日までに公民館や地域団体、ボランティアの協力の方などたくさんの協力を頂き、当日数十名の参加者があった。

育児サークル参加者のように困りごとが明確になっているものだけでなく、「困ったときにどこに相談をしたらいいかわからない」「地縁団体がどのような活動しているのかわからない」「集いの場に出たいが参加の方法がわからない」などといった声を聞くこともあった。また、この声は地区で役をもっておられる方も把握していたが、**どういう困りごとだと、どこに連絡をしたらいいのかわかりにくい**こともあった。近年、コロナの影響もあり、コミュニティの希薄化が進み地域の支え合う力が弱まりつつあると感じておられ、**地域の困りごとの相談先や集いの場、活動している各種団体をまとめたパンフレット**を作成することで、お互いさまの精神で隣人の困りごとに気付き、少しの手助けや気配りで、困っている隣人を支え合えるまちづくりを目指し、パンフレットの作成に至った。

◆取組みの方法・展開（活用方法等）

「困りごとがあってもどこに相談をしたらいいのかわからない」「集いの場に参加したいけど参加の方法がわからない」などといった住民の方の声から、**城北に特化したパンフレット作成に向けて城北地区「支え愛」連携協議会が新たに立ち上がった。**

各種地域団体、関係機関が集まり会議が行われ、地縁団体だけでなく、包括支援センターや保健所、市役所からも参加された。

パンフレットには公的な相談窓口をカテゴリーごとに掲載をしている。公的機関の代表的な連絡先や地区内連絡先として保育園や育児サークル、就労支援作業所、集いの場としてふれあい・いきいきサロンや城北ふれあい教室、移動スーパーのとくし丸の情報を掲載している。他にも会議から、災害が起きたとき避難場所が分からないという意見から、地区で作成されている災害時の“支え合いの避難”の手順の掲載や避難場所をマップへ落とし込んだ。

また、城北地区では23もの団体が活動している。このことは地区にとって強みであるが、一方で団体の活動内容をお互いが知っていないと連携が取りにくいという部分については課題であると感じておられる方もおられた。団体の活動内容を住民の方にも知っていただくためにも掲載をするのがいいのではないだろうかという意見から、団体の活動内容を掲載することになり、すべての団体にも作成の協力をいただいた。

完成したパンフレットは、自治会に加入されている家庭に配布を行った。掲載に協力いただいた機関にも予備を含め配布をした。未加入世帯には配布できていないため、集いの場の訪問時や相談に来られた時にお渡しできたらと考えている。



鳥取砂丘の夕景

◆取組みの成果・課題（よかった点、苦労した点、失敗談等）

パンフレット作成という目標に向けて、自然と地域アセスメントを進めることができた。また、地域アセスメントを行うプロセス自体が、地域の繋がりを高めることになり良かった。

また、リユース事業からパンフレット完成までに、鳥取市社協では異動があり担当が交代した。引継ぎでは、鳥取市社協が作成していた城北地区の地域アセスメントシートを活用することで、スムーズに引継ぎできた。

住民の声から冊子作成に向けて地域の各種団体や関係機関が集まりそれぞれの意見や思いを聞きながら一緒に取り組むことができたこと、住民の方々へ配布ができたことは大きな成果と考える。生活支援コーディネーターは、普段お話する機会の少ない、老人クラブや婦人会、PTAなどと、この会を通じて繋がりを持つことができた。また、生活支援コーディネーターだけでなく、地域の団体同士の新たな関係を築くことができる場となった。

課題としては、自治会未加入世帯へは配布を行っていない。

◆今後の展開

上記のとおり、自治会未加入世帯へパンフレットの配布を行うかについては今後検討が必要だが、解決策が見えていないのが現実である。パンフレット作成をきっかけに地区での新たな地域の課題を掘り上げ、課題解決に向けて話し合うことができる2層協議体の構築のため引き続き関わっていきたい。



菱沼先生からのコメント

この実践の特徴は、多様な地域団体と福祉関係機関によって構成される「支え愛」連携協議会を立ち上げ、住民のニーズに応じた情報を掲載したパンフレットを共同で作成したことです。

その取り組みは、住民の声がきっかけであり、その声に応える形でパンフレットの内容を考えていった点は重要です。なお、今後の課題として、自治会未加入世帯への配布がありますが、例えばインターネット上に公開できる情報については、情報を必要とする方が検索できるようにしていくことも一つの方法です。

地域アセスメント基礎情報シート

作成日

地区名	城北地区	エリア	〇〇区
歴史			
数十年前は田んぼの地域。〇〇の土地に、〇〇養豚場があった。古くからある住宅地、新興の住宅地、近年ではマンションの建設などもある。郊外型の店舗や卸売り団地など商業的にも多くの施設がある。さらに千代川やきつね川が地区を流れていることも大きな特徴である。			

地域特性（ハード面・ソフト面の概況）

地理的特徴	鳥取市の中心より北に位置する。袋川と千代川に挟まれている。
交通アクセス状況	【日本交通】鳥取砂丘線・北園団地線・十六本松線 【日の丸バス】鳥取砂丘線・イオン鳥取北線・鳥取大学線・湖山地線・賀露循環線
生活環境（商店、金融機関等）	【商店】〇〇（スーパー）田園町店、〇〇（コンビニ）鳥取西品治店 【移動販売】とくし丸：秋里 水、土 11：30～・松並 水、土 12：30～ 【金融機関】〇〇城北出張所、〇〇鳥取北支店 【郵便局】〇〇簡易郵便局
住宅状況	古くからある住宅地、新興の住宅地、マンションなど 【県営住宅】丸山町第二団地 【市営住宅】田園町一丁目
地域活動の状況	まちづくり協議会を中心に、いろいろな活動が行われている。
防災活動の状況	防災対策協議会
相談できる場所	・城北地区公民館 ・地区社会福祉協議会の相談室（公民館内） ・鳥取北地域包括支援センター（こうほうえん） ・じょうほく子育て支援センター（城北保育園内）

基礎情報（ 年時点）

人口	7,074	世帯数	3,095	世帯平均人数	不明	高齢化率	22.10%
(0～14歳)	1,157	(15～64歳)	4,357			高齢人口(65歳以上)	1,560
出生数	不明	死亡数		転入数	不明	転出数	
一人暮らし高齢者人口		高齢者のみ世帯	454	要介護認定者数		外国人登録者数	不明
身体障害者数	不明	知的障害者数	不明	精神障害者数	不明	自治会加入率	66%

公共施設

種別	数	特記事項（施設名、地域開放・地域との共催事業等特筆させる活動、キーパーソン等）
保育園	1	(私立)城北保育園（さとに会）(青葉町三丁目 121-1)
幼稚園	0	
小学校	1	城北小学校（田園町 4 丁目 324） 福祉学習：令和 2 年度、令和 3 年度、令和 4 年度
中学校	0	
高校/大学/専門学校等	1	城北高等学校 福祉学習：令和 2 年度、令和 3 年度
公民館	1	城北地区公民館（R2.4.1～青葉町 3 丁目 121-1/ 移転前：田園町 4 丁目 223-1） 各サークル（教室 29・サロン 2・太鼓クラブ）・ふれあい教室 など
公園	8	秋里タウン公園（秋里 1071）・秋里 1 号公園（秋里 1198）・城北公園（松並町二丁目 320）・ 青葉公園（青葉町三丁目 382-5）・田島第一公園（田島 771）・田島第 2 公園（田島）・ 西品治公園（西品治 611-5）・松並児童遊園（松並町 1 丁目）

城北地区 支え合いネットワーク

【保存版】

困りごとの相談先や集いの場、
城北地区で活動されている各種団体の紹介



城北まちづくり協議会

公的機関連絡先

※相談時間について、掲載のない場合は、平日 8:30～17:15 です。
※休業日について、記載のない場合、年末年始・土日祝日は、お休みです。
※市外局番について、0120 を記載の電話番号以外の電話番号は、市外局番 0857 を省略しています。

子どもに関する相談

子育て相談ダイヤル
子育ての不安や悩みについて
鳥取市 健康子ども部 子ども家庭相談センター ☎36-0505
鳥取市保健所 健康・子育て推進課 ☎20-3203

鳥取ファミリー・サポート・センター（育児型）
（さざんか会館1階） ☎39-2761
保育園・幼稚園・放課後児童クラブへの送迎、開所前・閉所後の預かり、乳幼児を連れて出かけにくい時の預かりなど

障がい児・者に関する相談

鳥取市 福祉部 障がい福祉課
（市役所本庁舎1階） ☎30-8217

鳥取市基幹相談支援センター
（さざんか会館2階） ☎22-0678
障がいのある方の福祉に関すること

高齢者に関する相談

鳥取北地域包括支援センター
（北デイサービスセンター内） ☎20-2205
介護、介護予防、医療、福祉、生活、虐待、権利擁護に関する相談

北第1地域福祉相談センター
（北デイサービスセンター内） ☎20-2616
福祉に関する相談を一貫受け止める
相談時間：8:30～17:30（土日を除く）

鳥取ファミリー・サポート・センター（生活援助型）
（さざんか会館1階） ☎22-7474
高齢者のお宅を訪問して、軽度で専門性を要しない簡単な家事など

警察への相談

警察総合相談電話 24時間対応 ☎9110 (27-9110)
または鳥取警察署か、お近くの交番・駐在所にご相談ください。

団体紹介

団体名 ①構成員 ②組織の性格・活動内容

子ども：[子] 障がい児・者：[障] 高齢者：[高] 健康：[健] 生活：[生]

城北地区は、21の町内で構成されています。各町内から選出された役員が中心となったテーマごとの団体（組織）と、有志が集って活動する団体が、個々の強みを活かして活動し、「元気で 楽しく 心地よく住んでよかった」と実感できる城北へを合言葉に「まちづくり」を推進してきました。

団体に関するお問い合わせは、地区公民館（☎26-3997）にお尋ねください。

自治連合会

①町内会長
②城北地区を代表する中核となる団体です。行政とのパイプ役として活動し、市も、その活動を支援しています。住民阿士のつながりを深める活動や、地域におけるさまざまな課題の解決に向けて幅広く取り組んでいます。

社会福祉協議会

①町内会長＋各種団体代表者＋有志
②城北地区の社会福祉活動を代表する中核となる団体です。公民館内の福祉相談室を拠点に活動しています。市社会福祉協議会も、その活動を支援しています。暮らしに関する住民からの困りごとの相談・福祉事業を幅広く展開しています。

まちづくり協議会

①町内会長＋各種団体代表者＋有志
②住民の視点で地域課題を検討し、公民館を拠点として地域が一体となって課題解決に向けて取り組むための連携を図る組織です。市も、その活動を支援し、参画と協働のまちづくりを推進しています。

防災対策協議会

①自主防災会長＋各種団体代表者＋有志
②いつ起きるか分からない災害に備え、地域防災力を高める団体です。防災に対する知識・技能等の啓発と、災害時の避難等のあり方を検討し、訓練を通して地域住民の安全・安心を担保する事業を展開しています。

城北校区体育会

①町内会長＋町内選出体育会理事＋有志
②城北校区住民相互の親睦を体育祭を通して図る団体です。各種スポーツ大会の実施、指導者の養成、市民体育祭への参加など幅広く事業展開しています。

城北地区内マップ



指定緊急避難場所

※避難所については、その都度確認ください。

名称（区内）	洪水	地震	津波
1 城北体育館	☑	☑	☑
2 城北地区公民館	☑	☑	☑
3 城北小学校	☑	☑	☑

名称（区外）	地震	津波	土砂	火災
1 田島公共空地	☑	☑	☑	☑
2 田島第1公園	☑	☑	☑	☑
3 秋里下水終末処理場	☑	☑	☑	☑
4 秋里タウン公園	☑	☑	☑	☑
5 秋里1号公園	☑	☑	☑	☑
6 城北公園	☑	☑	☑	☑
7 城北テニス場	☑	☑	☑	☑
8 城北小学校（グラウンド）	☑	☑	☑	☑
9 青葉公園	☑	☑	☑	☑

発行元 城北地区「支えあ」連携協議会 ☎26-3997（城北地区公民館）（令和5年3月1日現在）

城北地区支え合いネットワークの一部抜粋

7. 地域カルテシートの改善・留意点について

市町村社協が地域カルテを活用するにあたり、いくつかのポイントに留意することが重要です。考慮すべきポイントを挙げてみましょう。

① 引継ぎについて

市町村社協では人事異動があります。

担当者が持っている情報はシートに記載して引き継ぐことが不可欠です。地域カルテにどこまで記録しておくべきか分からないといった意見がありますが、「後任者に伝えたいことはすべて記録しておく」というのが、一つの基準です。

新人職員や新たな担当者がアセスメントシートを使う場合は、使い方や記載方法を学び、地域アセスメントを進めていくための勉強会や会議を積極的に行っていくことが大切です。

② 記入方法について

地域カルテの情報をシートに記入するスタイルは様々です。

時間をかけて詳細に記す人もいれば、簡潔にまとめる人もいます。

記入方法を共有し、定期的な勉強会や指導を行うことが重要です。

③ 共有方法について

地域カルテの情報をどう共有するかの方法を検討する必要があります。

情報をサーバーに保存し、アクセスしやすくする方法や、地域別の紙ベースのファイルで保存する方法などがあります。

地域住民や関係機関との共有方法も含め、情報共有の仕組みをよく考えていく必要があります。

④ 更新について

情報の更新は年1回だけの場合もあれば、地域住民からの情報があるたびに更新するケースがあります。

更新頻度は市町村社協の体制や状況によって変わるため、適切な頻度を定める必要があります。また、地域カルテの項目自体の見直しも必要です。

8. おわりに

本書において地域カルテとは、地域をアセスメント（情報収集・分析）した記録であり、地域へのアプローチを検討し、「ありたい地域の姿」に近づけていくための重要なツールとお伝えしました。

それは、地域カルテが、地域の情報をまとめて、情報共有する優れた手段だからです。

鳥取県版地域カルテでは、地域を知るうえで重要な項目を記載し、8つのシートにまとめました。市町村社協は、このシートを埋めていくことで、地域の概要や強み、課題などをまとめることができ、住民や関係機関などとの情報共有にも使うことができます。

しかしながら、地域カルテはあくまで「ありたい地域の姿」に近づけていくためのツールの1つに過ぎません。地域カルテについて、様々な説明を書いてきましたが、地域カルテを作成することが地域支援のゴールではありません。地域カルテの項目を全て埋めたとしても、実際に支援に動かなければ、意味はありません。決して地域カルテを作成して終わりにせず、地域カルテを活用し、地域支援に繋げてください。

本策定委員会で、地域カルテに取り組んだ後のことについて、話題が出ましたので紹介いたします。

地域カルテに取り組んだ後は、実際に地域を支援するために、住民や関係機関と地域支援会議を開いていきましょう。重層的支援体制整備事業では、包括的な相談支援の体制が必要だと言われています。地域支援についても同じように、それぞれの分野を超えて、横断的な連携による地域づくりが必要になります。地域支援でよくある事例として、様々な分野の人たちが地域にお願いして、そのお願いが特定の住民に集中することで、その住民を疲弊させてしまうことがあります。こういった事態を防ぐために、分野を超えて、横断的に連携し、地域を支援していくことは、住民の負担を軽減させることに繋がり、よりスムーズな地域課題の解決が図れます。そのため、地域支援こそ、住民も含め様々な関係機関が1つとなり、チームになっていくことが大切です。

このように、地域支援は分野を超えた連携が重要になってきます。あくまで地域カルテは、この連携を手助けできるツールということを忘れずに活用していただければと思います。

最後になりますが、本書が地域づくりの一助になればと願っています。

鳥取県版地域カルテ策定委員会 事務局
(鳥取県社会福祉協議会 地域福祉部)

9. 鳥取県版地域カルテ策定委員からのコメント

鳥取市社協 株本さん



今回の委員会で他の市町村社協の活用方法を聞くことができ参考になりました。今後は課内共有だけでなく、地域や関係機関との共有が密になるようをさらに地域カルテを活用・更新をし、地域づくりにつとめていきたいです。

米子市社協 高砂さん

情報共有できるツールとしても地域カルテはとても有効だと思います。使われる方が使いやすいようにアレンジしたほうが地域に合ったカルテができると思います。

倉吉市社協 朝倉さん

生活支援コーディネーターとして、今まで活動してきたことを改めて振り返ることが出来ました。今後も地域へ出かけ、いろいろな地域へでかけ住民の方とコミュニケーションをとりながら、地域の課題を解決する取り組みを一緒に考え進めていきたいと思っています。

智頭町社協 正美さん

「職員の異動や退職で途切れてしまう情報や町民さんとの信頼関係をどのようにカバーしていけるのか…」 大きな課題だと感じていた時、委員として声をかけていただき、協議する良い機会をいただきました。今後、有効に活用していきたいです。

北栄町社協 前田さん

今回、地域カルテ策定委員会に参加させていただいたことをきっかけに、自治会シートを作成しました。地域の現状を様々な視点で見つめ、課題解決に向けてみんなで考え、支えあい助けあいのある町づくりを推進していきたいです。

南部町社協 吉元さん

今回、当社協が実施した地域アセスメントは地域の方々にも参加してもらってグループワーク形式で行いました。その際、気をつけたのは、支え愛マップ作りなどにも共通しますが、正確な情報を作成することが目的ではなく、自分たちの地域のことを考えるきっかけ作りであることを参加者の皆さんにお伝えしたことです。今後も地域アセスメントを実施していく際、積極的にグループワーク形式を取り入れたいと考えています。

10. 参考文献

- 社旗福祉法人 島根県社会福祉協議会 地域福祉推進委員会 モデル地域アセスメントシート 策定検討会. 地域福祉地域アセスメントを進めるための視点 ～地域福祉推進の手掛かりとして～, 平成 31 年 3 月.
- 社会福祉法人 新潟県社会福祉協議会. 地域アセスメントを取り入れた地域福祉活動推進ガイドライン. 令和 3 年 1 月.

11. 鳥取県版地域カルテ策定委員会について

- 鳥取県版地域カルテ策定委員会の策定経過
市町村社協職員、学識者で構成する委員会を設置。鳥取県版地域カルテの策定を行いました。

令和 4 年 7 月 4 日	第 1 回	各市町村での地域の状況把握・情報共有等の状況について把握
10 月 14 日	第 2 回	各市町村での地域アセスメントの状況について把握 鳥取県版地域カルテのススメの構成案について議論
11 月 21 日	第 3 回	地域アセスメントの必要性（目的・活用）について議論 鳥取県版地域カルテのフォーマットについて議論
12 月 2 日	第 4 回	地域アセスメントから地域支援への展開について議論 鳥取県版地域カルテのフォーマットについて議論 鳥取県版地域カルテのススメの構成案について議論
令和 5 年 9 月 27 日	第 5 回	各市町村での地域カルテの取組事例について議論
12 月 26 日	第 6 回	鳥取県版地域カルテのススメの内容について議論



鳥取県版地域カルテ策定委員会委員名簿

【委員】 ※所属・役職名は任期当時のもの ○令和4年度委員長、●令和5年度委員長
(敬称略)

氏名	所属・役職名	任期
宮崎 和義	鳥取市社会福祉協議会 地域支え合い支援課 地域支え合い係長	令和4年度
株本 裕成	鳥取市社会福祉協議会 地域支え合い支援課 地域支え合い係長	令和5年度
○谷口 佑介	米子市社会福祉協議会 福祉のまちづくり推進課 主任	令和4年度
高砂 裕子	米子市社会福祉協議会 福祉のまちづくり推進課 係長	令和5年度
廣芳 健二	倉吉市社会福祉協議会 地域福祉課 地域福祉係長 兼第2層生活支援コーディネーター	令和4年度
朝倉 裕美	倉吉市社会福祉協議会 地域福祉課地域福祉係主任 兼第2層生活支援コーディネーター	令和5年度
●正美 詩穂	智頭町社会福祉協議会 総務課 係長	令和4年度 令和5年度
前田 悦子	北栄町社会福祉協議会 地域福祉課 主事	令和4年度 令和5年度
吉元 良	南部町社会福祉協議会 福祉係長 コミュニティソーシャルワーカー兼主任相談支援員	令和4年度 令和5年度

【アドバイザー】

菱沼 幹男	日本社会事業大学 社会福祉学部 福祉計画学科 教授	令和4年度 令和5年度
-------	------------------------------	----------------

【オブザーバー】

桂 詩央里	鳥取県福祉保健部ささえあい福祉局 孤独・孤立対策課 係長	令和4年度 令和5年度
-------	---------------------------------	----------------



発行：令和6年3月
社会福祉法人 鳥取県社会福祉協議会

協力

社会福祉法人 鳥取市社会福祉協議会
社会福祉法人 米子市社会福祉協議会
社会福祉法人 倉吉市社会福祉協議会
社会福祉法人 智頭町社会福祉協議会
社会福祉法人 北栄町社会福祉協議会
社会福祉法人 南部町社会福祉協議会
日本社会事業大学社会福祉学部教授 菱沼幹男 氏

社会福祉法人 **鳥取県社会福祉協議会**

〒 689-0201 鳥取市伏野 1729-5

県立福祉人材研修センター内

TEL 0857-59-6332 FAX 0857-59-6340

E-mail chiiki@tottori-wel.or.jp

URL <https://www.tottori-wel.or.jp/>